都城市文化財調査報告書　第92集

# 向原第２遺跡（第３次調査）

2009（平成21）年３月
宮崎県都城市教育委員会

# 序　　文

本書は南九州大学施設建設に伴い、平成19年度に都城市教育委員会が調査を実施しました向原第２遺跡の調査報告書です。

向原遺跡の発掘調査は、平成元年度宮崎産業経営大学都城キャンパス開校に先立ち向原第１遺跡と同第２遺跡を調査し、次に民間開発に伴い、向原第２遺跡の２次調査を平成17年度に実施しています。今回の第３次調査では３軒の竪穴住居と１基の竪穴状遺構が出土し、南への集落の広がりを確認することができました。

本書が市民の皆様の埋蔵文化財や地域歴史の理解の一助となり、考古学や地域史の研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査及び報告書作成にあたり、発掘調査や整理作業に従事された作業員の皆様や都城市大学誘致対策室をはじめとする関係各位に深く感謝申し上げます。

平成21年３月

都城市教育委員会
教育長　玉　利　　譲

# 例　　言

1．本書は南九州大学施設建設に伴い、平成19年度実施した都城市立野町3727番1に所在する向原遺跡の発掘調査報告書で、今回が第3次調査である。
2．本書で用いる遺構名及び略記号は、竪穴住居はSA、竪穴状遺構はSX、土坑はSCである。
3．当調査において、文化財課嘱託職員下田代清海には長期に亘り協力を頂いた。本書に使用した遺構実測図は、調査担当及び下田代清海、職員近沢恒典、嘱託職員中村友昭が行った。遺物実測図は調査担当のもと整理作業員が行った。石器については、文化財課職員栗山葉子及び同職員指導のもと整理作業員が行った。
4．本書に使用した図の製図（トレース）は調査担当が行い、石器については栗山の協力を得た。
5．本書に使用した遺構の写真撮影・遺物写真撮影は調査担当が行なった。
6．本書に掲載した方位はすべて真北である。
7．本書に関する実測図、写真、遺物等は都城市教育委員会文化財課所管の施設に収蔵している。
8．本書の執筆は3．（4）を株式会社古環境研究所、それ以外を矢部が担当し、編集もおこなった。なお、石器については栗山葉子にご教示を賜った。

## 本　文　目　次


1．はじめに……1
（1）調査に至る経緯 ……1
（2）調査の組織 ……1
2．遺跡の位置と環境……2
3．調査の記録……3
（1）調査の概要 ……3
（2）遺跡の基本的な層序 ……3
（3）遺構と遺物 ……3
（4）自然科学分析 …… 34
4．小結…… 43


## 挿　図　目　次


第1図 遺跡位置図 …… 2
第2図 周辺地形図 …… 4
第3図 遺構分布図 …… 5
第4図 東･北壁土層図(研究実習棟)… 6
第5図 北･東･南壁土層図(管理棟) … 7
第6図 竪穴住居1(SA01) …… 8
第7図 竪穴住居1内出土遺物(1)…… 9
第8図 竪穴住居1内出土遺物(2)…… 10
第9図 竪穴住居1内出土遺物(3)…… 11
第10図 竪穴住居2(SA02) …… 12
第11図 竪穴住居2内出土遺物(1)…… 13
第12図 竪穴住居2出内土遺物(2)…… 14
第13図 竪穴住居2内出土遺物(3)…… 15
第14図 竪穴住居2内出土遺物(4)…… 16
第15図 竪穴住居2内出土遺物(5)…… 17
第16図 竪穴住居2内出土遺物(6)…… 18
第17図 竪穴住居3(SA03) …… 19
第18図 竪穴住居3内出土遺物(1)…… 20
第19図 竪穴住居3内出土遺物(2)…… 21
第20図 竪穴住居3内出土遺物(3)…… 22
第21図 竪穴状遺構1(SX01) …… 23
第22図 竪穴状遺構1内出土遺物(1)… 24
第23図 竪穴状遺構1内出土遺物(2)… 25
第24図 竪穴状遺構1内出土遺物(3)… 26
第25図 土坑･ピット …… 26
第26図 入子 …… 26
第27図 包含層出土遺物(1) …… 27
第28図 包含層出土遺物(2) …… 28
第29図 包含層出土遺物(3) …… 29


## 表　目　次


表1 出土遺物観察表① …… 30
表2 出土遺物観察表② …… 31
表3 出土遺物観察表③ …… 32
表4 出土遺物観察表④ …… 33


## 写真図版目次


写真図版1 平成元年･17年調査遠景……44
写真図版2 北側調査区域　竪穴住居1 ……45
写真図版3 竪穴住居2 ……46
写真図版4 竪穴住居3 ……47
写真図版5 竪穴状遺構1 ……48
写真図版6 出土遺物① ……49
写真図版7 出土遺物② ……50
写真図版8 出土遺物③ ……51
写真図版9 出土遺物④ ……52
写真図版10 出土遺物⑤ ……53

## １．はじめに

（１）調査に至る経緯

平成19年６月22日付けで学校法人南九州学園より都城市立野町3727番１ほか（27,880㎡）における『文化財所在の有無について』の照会を受けた。文化財課では、平成63年に同地番の試掘調査、平成元年には同地内を廻る市道建設に先立ち本調査を実施し、遺跡の把握と保存に努めてきた。

今回の照会を受け、20年の歳月が経ち現況も応分に変化していたため、 再度試掘調査を実施し、遺跡の状況を把握することとした。 平成19年7月25、26日、対象地に11ヶ所のトレンチを設定し、試掘調査を実施した。結果、0.2mから２m程度の盛土造成下に旧地表が確認され、遺物包含層の黒色土層から土器片が出土した。詳細については都城市文化財調査報告書第88集を参照されたい。申請者に試掘調査結果を報告し、該地の埋蔵文化財包蔵区域と土木工事等の計画について協議を重ね、平成19年12月19日付南九学第45号で文化財保護法第93条第1項の規定に基づく届出の提出を受け、宮崎県教育委員会へ進達した。工事により遺跡に影響を及ぼす研究実習棟と管理棟予定地部分約1,780㎡について発掘調査を実施することとなった。調査は平成20年1月9日から同年3月31日までおこなった。

（２）調査の組織

＜発掘作業＞　平成19年度

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査主体 | 都城市教育委員会 | 教 育 長 | 玉利　譲 |
| | | 教育部長 | 岩﨑　透 |
| 事 務 局 | 文化財課 | 課　　長 | 高野　隆志 |
| | | 主　　幹 | 新宮　髙弘 |
| | 調査担当 | 副 主 幹 | 矢部喜多夫 |
| | 調査協力者 | 主　　査 | 近沢　恒典 |
| | | 嘱託職員 | 下田代清海 |
| | | 嘱託職員 | 中村　友昭 |

発掘作業　高橋　露子　中須　純子　平田美智子　森山タツ子　今村ミツ子　岩本　泉
津曲　節子　平山甲子郎　小山田福子　渡辺　恭一　竹中美代子　大山伊智子
竹下　康子　谷口　興子　猪ヶ倉重光　奥　利治　木村　七郎　武石　重利
永田　義晴　外山亜紀子　大盛　祐子

＜報告書作成作業＞　平成20年度

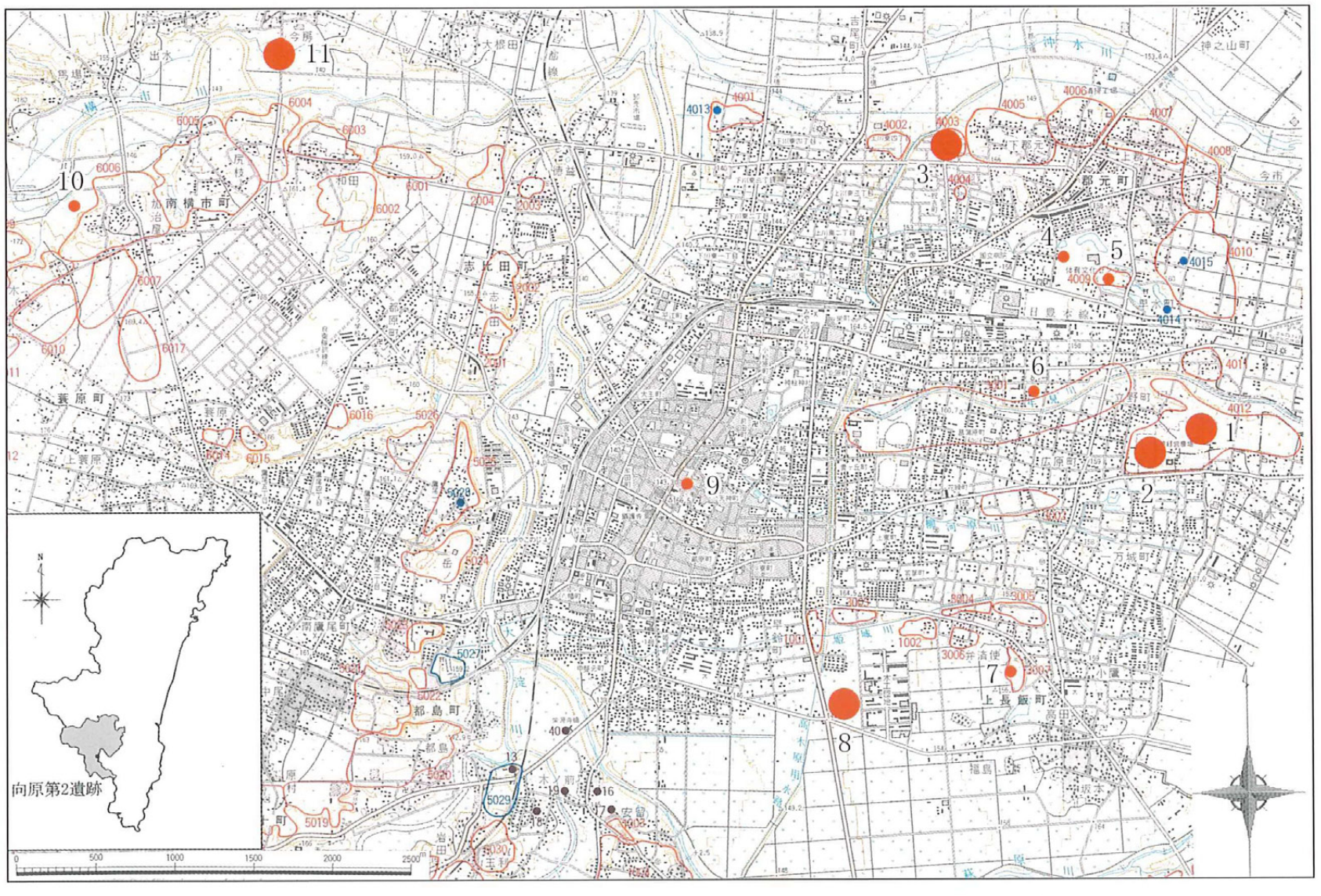
| | | | |
|---|---|---|---|
| 主　　体 | 都城市教育委員会 | 教 育 長 | 玉利　譲 |
| | | 教育部長 | 岩﨑　透 |
| 事 務 局 | 文化財課 | 課　　長 | 和田　芳律 |
| | | 副 課 長 | 常盤　公生 |
| | 報告書作成担当 | 主　　幹 | 矢部喜多夫 |

整理作業　児玉　信子　内村ゆかり　吉留　優子　福岡八重子　尾曲　真貴　奥　登根子
新屋　美佳　槇尾恵美子　水光　弘子　水元美紀子

## 2．遺跡の位置と環境

都城市は宮崎県の南西、鹿児島県との境に位置する都城盆地に所在する。 盆地は東西方向が長い楕円形で面積おおよそ250km²を占め、南端が県境で鹿児島県曽於市を一部含み、平成18年の合併後は都城市と三股町と２市１町からなっている。 都城市の標高は最高（高千穂山頂）で1,574m、最低（高城町四家本八重）で56mを測る。河川は曽於市末吉に源流のある大淀川本流が盆地を東西に分断しながら北流し、支流が東西方向から葉脈状に流れ込み、流域には氾濫面である沖積地が拡がる。大淀川西側では成層シラス台地が迫り、縁辺では河岸段丘面が発達している。東側では大きく３つの開析扇状地が広がり、向原遺跡は市街地を形成する一万城扇状地の中央やや東、標高150mほどに位置する。また、大淀川本流に東から流路をとる年見川の南面に立地し、遺跡北側には開析谷が迫り、旧地形は東から西へ緩やかに傾斜している。

一万城扇状地は北に沖水川、西に大淀川（本流）、南に萩原川に囲まれ、東に鰐塚山系の柳岳山麓へ繋がる。 扇状地はほぼ平坦で東側市街地と三股町市街地を形成している。 周辺の遺跡について、特に弥生時代から古墳時代にかけて概観すると、沖水川を望む北側の縁辺部に祝吉(第１、２)遺跡、やや内陸に入り、旧河川の痕跡が北側で伺える牟田ノ上遺跡、池ノ友遺跡、年見川北岸の年見川遺跡、三股町境の小鷹原遺跡、萩原川を望む扇状地南端の後牟田遺跡、年見川下流の柳川原遺跡などが確認されている。また、大淀川の西側、横市川流域の段丘面に立地する今房遺跡、坂元Ｂ遺跡や平田遺跡などでも弥生時代後期の遺構・遺物が出土している。




1 向原第2遺跡　2 向原第1遺跡　3 祝吉遺跡　4 牟田ノ上遺跡
5 池ノ友遺跡　6 年見川遺跡（九州大学調査地点）　7 後牟田遺跡
8 高田遺跡　9 柳川原遺跡　10 坂元Ｂ遺跡　11 今房遺跡

第１図　遺跡位置図

## ３．調査の記録

（１）調査の概要

向原第２遺跡発掘調査は、グリッド法を用い、メッシュは公共座標のＳＮ座標線に一致し、グリッド単位を10ｍとした。各グリッドについては、東西方向を東から１、２、３…と、南北方向を北からａ、ｂ、ｃ…と呼称する。表示している方位は真北である。

調査方法は造成土（盛土）と１層から３層上部まで重機により剥ぎ取り、以後人力により掘下げた。調査の後半では、期間との兼ね合いもあり調査区内にトレンチを設け、遺構を検出すると拡張をしていく方法をとった。

（２）遺跡の基本的な層序

本遺跡の基本的な層序は、以下のとおりである。

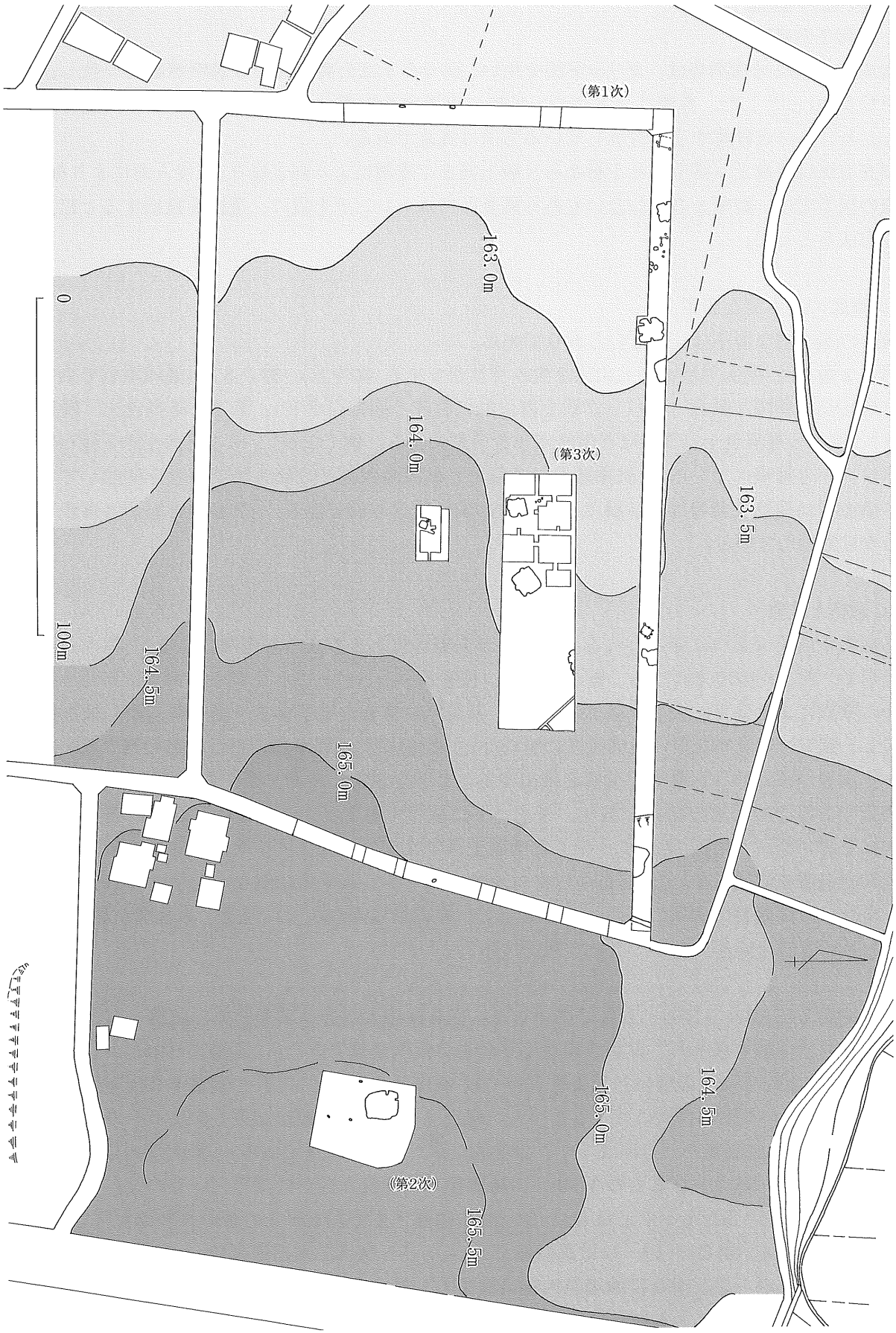
第１ａ層表土(明灰黒色土で火山灰を含みザラザラする:耕作土)、第１ｂ層(濃灰黒色でやや硬い)、第２層桜島文明降下軽石（ブロック状で部分的に存在：通称白ボラ)、第３ａ層黒色土（硬質でザラザラ)、第３ｂ層黒色土（下部ほど御池ボラを多量に含み、硬くなる)、第４層御池降下軽石層（通称黄ボラ）…と堆積している。 試掘結果によると、対象地西側では第３層で湧水を確認している。今回の調査では遺物包含層は第３層で、遺構検出面は第３ｂ層である。 なお、元地形は東から西へなだらかに傾斜している。

（３）遺構と遺物

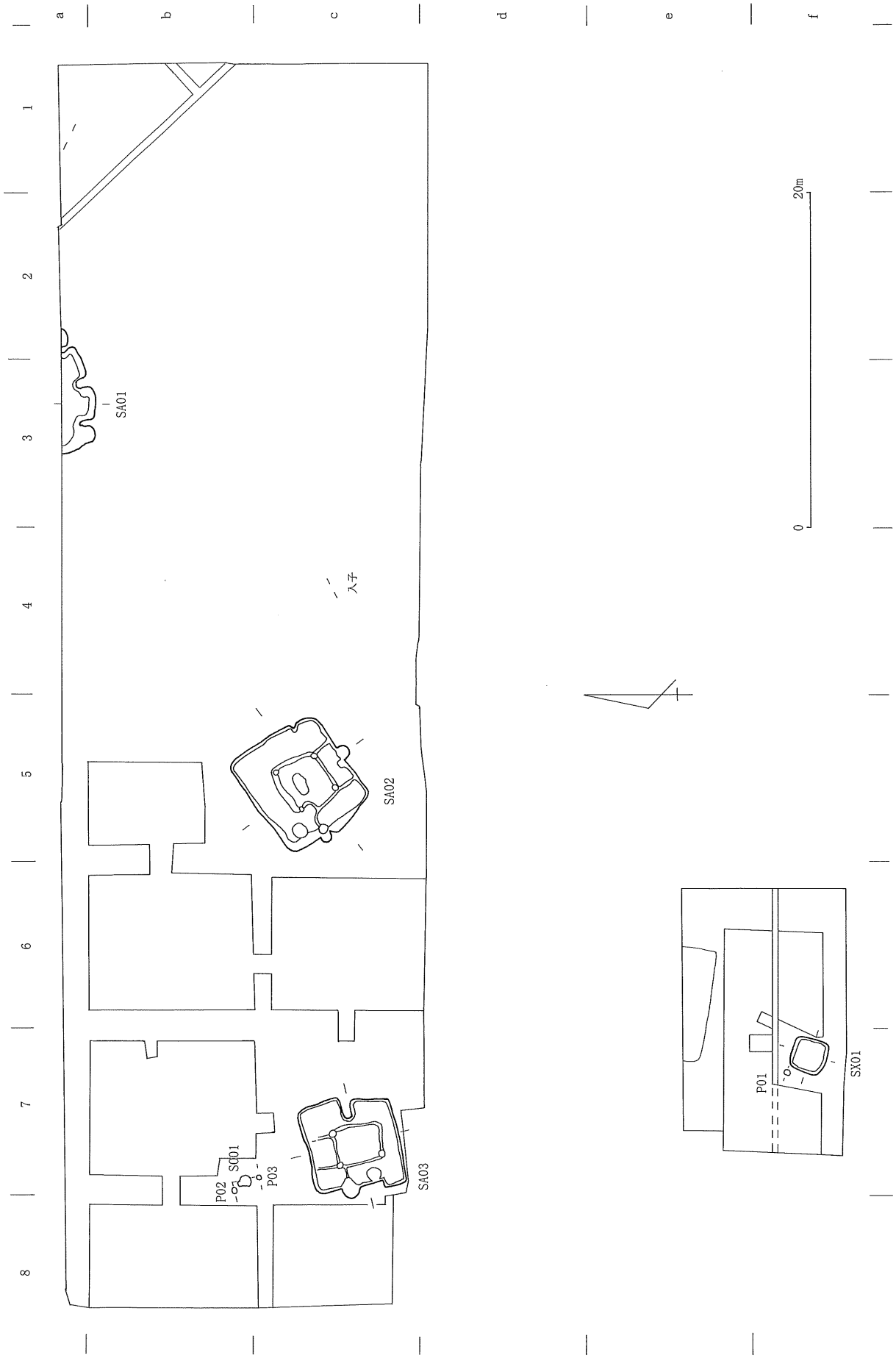
発掘調査箇所は２つに分けられる。北から研究実習棟とその南の管理棟になる。 各々の調査区域は方形で、前者が南北方向22m、東西が75m、後者が９ｍ、15mほどを測る。調査は年明けの１月９日から重機により盛土、表土を剥ぎ取った。 ３月末に調査を完了する予定で東側から順次作業員を導入し、掘下げを進めながら遺構検出に努めた。 第3層中で遺物が出土し、遺物の集中箇所も散在したが包含層が厚く第３ｂ層中で遺構を検出するには予想以上に時間を要する状況となった。 年度末の調査であるため期間の制約もあり、グリッドに並行するトレンチを東西・南北に複数設定し、遺構検出を急いだ。 ３月上旬にようやく北側調査区で３軒の竪穴住居を検出、３月中旬に南側で１基の竪穴状遺構を確認した。 住居跡のほかは土坑、ピット、入子状に重なった手づくね土器が出土した。また、断面観察で溝状の落ち込みを確認し、中近世以降の水田に関連する遺構と思われる。 最後の一月は応援を仰ぎ、あわただしく調査し終了した。

**竪穴住居１(SA01)**　３-ａ・ｂ区で出土した。住居跡の大部分は調査区外の北側に拡がっている。円形の花弁状住居と思われ、現状で間仕切り壁を３箇所確認できた。 規模は不明だが北壁で、東西約7.5ｍ、南北約２ｍ、深度はおおよそ0.3～0.4ｍほどを測る。 円形と仮定すれば直径８ｍ程度が推定され、間仕切り壁の西側にピットを伴う。埋土は第３層で下部ほど硬く御池ボラの混入が多い。

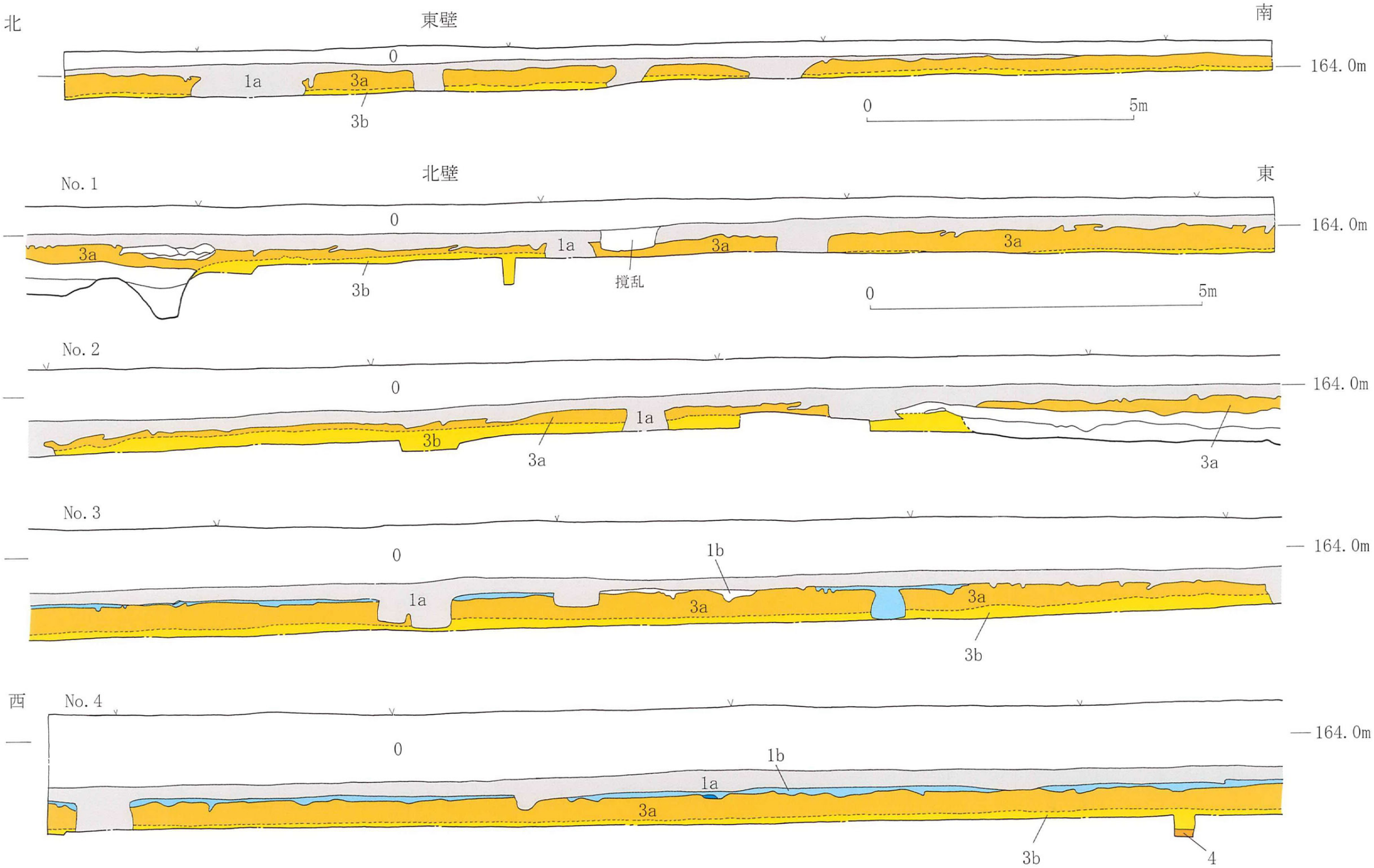
**出土遺物**　１～12は甕で、口縁は「く」の字状だが、屈曲は緩慢である。 最大径の位置により分けると、口縁部径が最大となるもの４・９、口縁部径と胴部最大径がほぼ等しいもの３、胴部径が最大となるもの１・２・５・６・７となる。 ９は屈曲部直下まで右下がりの細いタタキが残る。 10はかなり充実した平底である。 13・14は直口壷である。 15・16は二重口縁壷で、15の拡張部は張り付けており直立しながら立上がり口縁端部内側に稜をもち外反しながら先細る。櫛描きは粗い。 頸部には２条の沈線間にヘラによる刻目を施している。16は頸部に刻目突帯を巡らし口縁の屈曲は鈍く、拡張部は内湾気味に立ち上がる。胎土は15と同様である。17は長頸壷と思われる。口縁端部は内側先細り、その部分に櫛描文を施す。器壁は割と薄く胎土焼成は堅緻である。18は高杯で杯部がないが、脚


(第1次)
163.0m
164.0m
(第3次)
163.5m
0
100m
164.5m
165.0m
165.0m
164.5m
(第2次)
165.5m

第２図　周辺地形図




第３図　遺構分布図



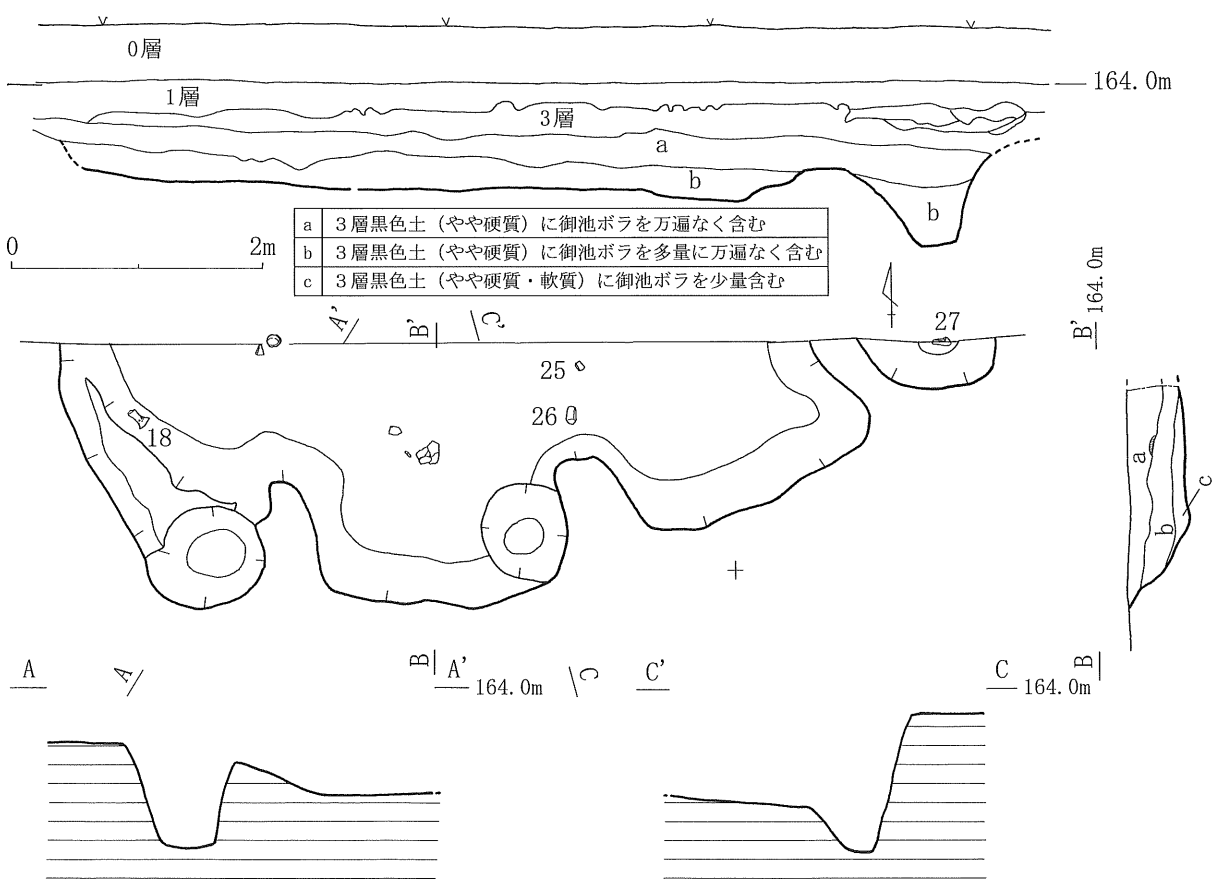

第4図 東・北壁土層図（研究実習棟）

第５図　北・東・南壁土層断面図（管理棟）

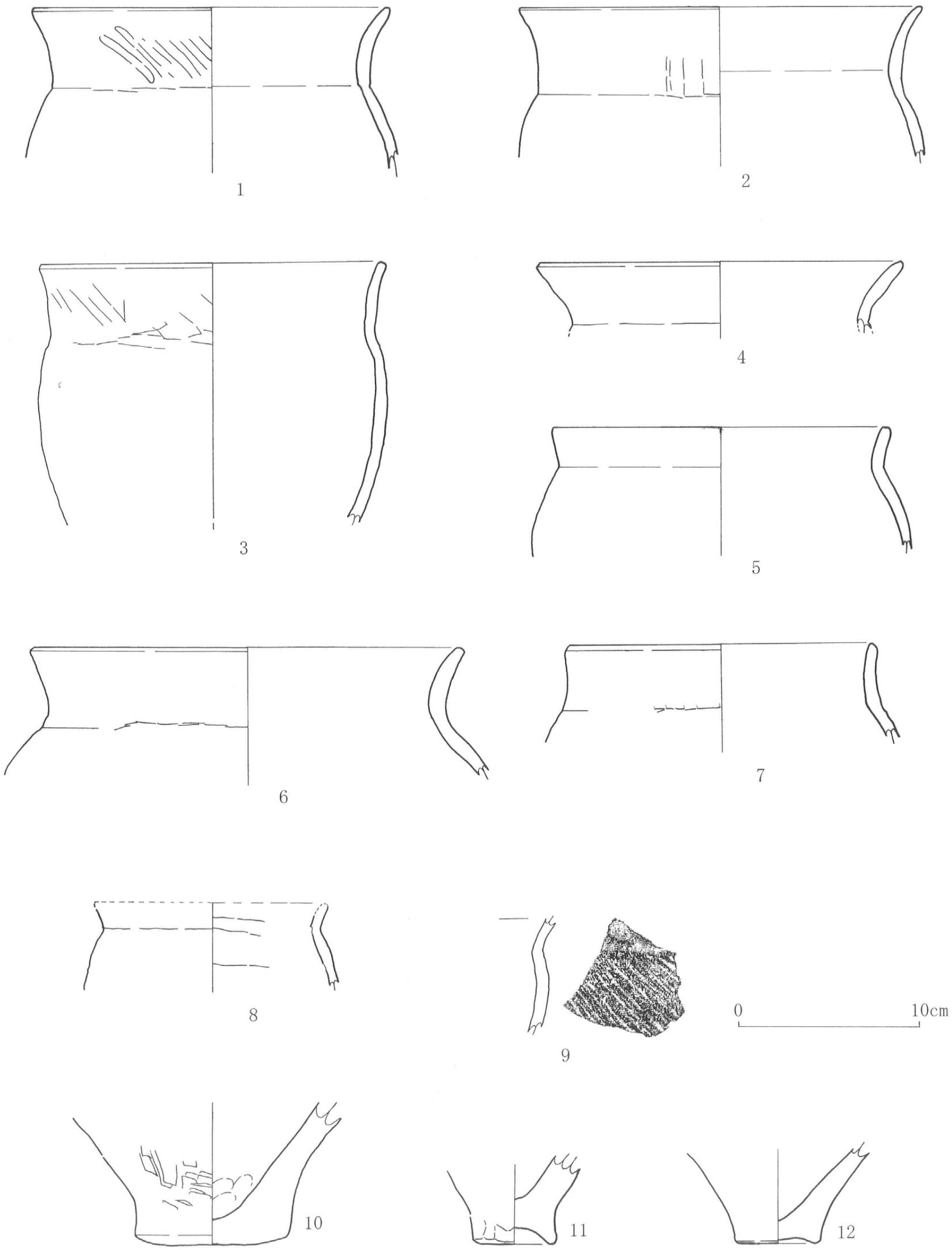
部はラッパ状に広がる。20は深鉢で底部はわずかに平底を残す。22は有孔鉢で孔径は15mmほどである。25は砥石、26･27は叩石である。

**竪穴住居２(SA02)**　5－c区で検出する。略東西方向が最大で7.2m、南北が６m(中央土坑では6.6m)の方形で、真北より45°程度傾く。東辺南側に小さい突出部、西辺にテラス状の張出しを設ける。壁周りにはベット状遺構を配置する。南壁際が一番低く幅1m、長さ2.6m、次に東壁から北壁とＬ字形に横たわり、中央部の北西角を潰すように張り出す。最後に一番高い西南部分が長辺3.5 m、短辺0.9 mとなる。中央は略方形をなし一段下がる。各四隅に30cmほどの主柱（穴）を配置する。柱穴はやや内傾気味に掘られている。住居中央に方形の土坑があり、それと直交するように褐色粘質土に黒色土、粗細粒御池ボラと炭が混じり硬化した層が薄く堆積している。

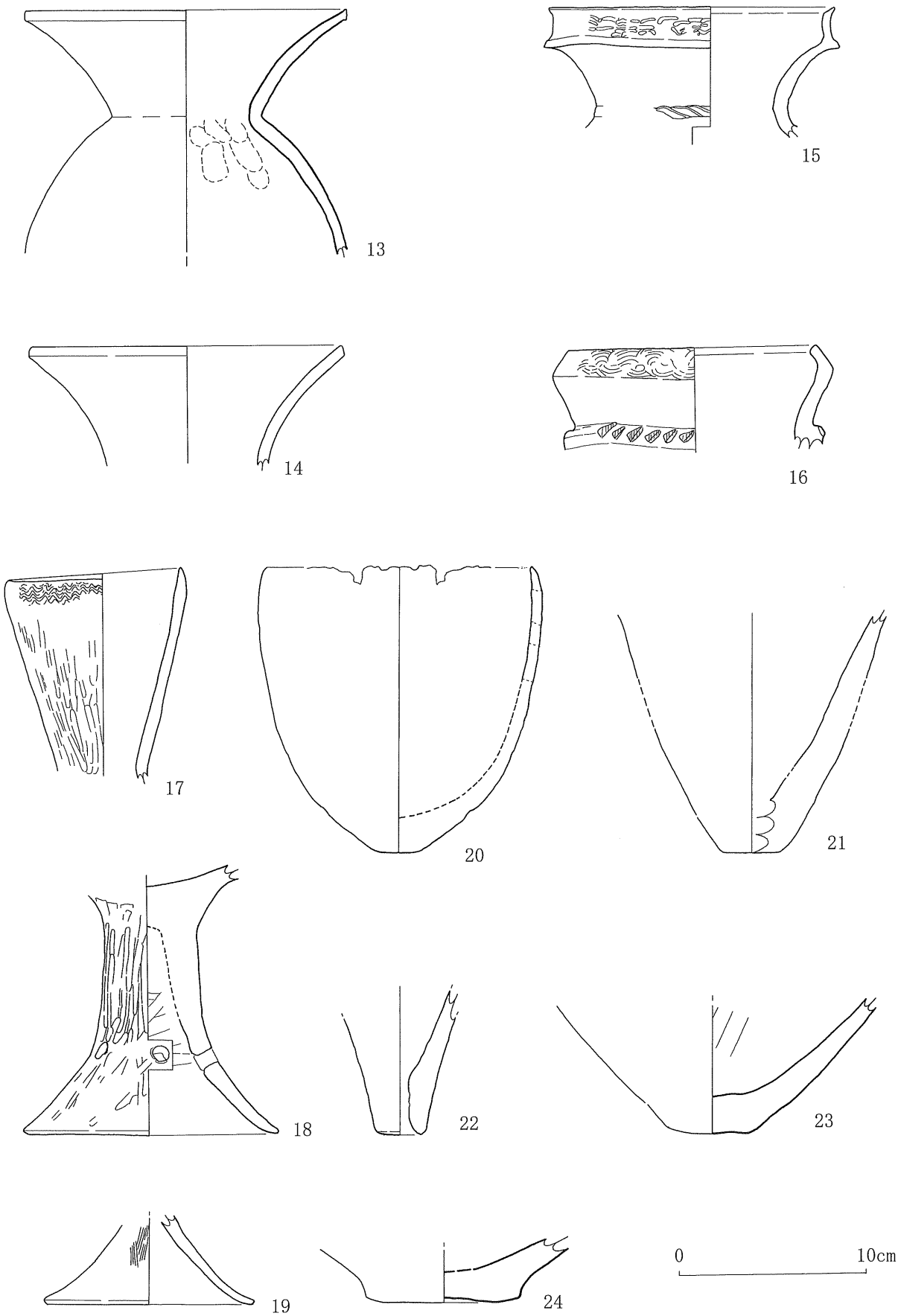
**出土遺物** 28～34は甕で、屈曲部分にカキアゲを残し口縁が外反しながら立ち上がる。最大径が口縁径と胴上部径と等しいものが30、口縁径が最大のものが29、胴上部径が最大が28、31、32である。底部は上げ底気味と平底がある。35は壷の胴部で現存長が50cm弱、倒卵形で内外ともハケメを施し、頸・口縁部が欠損しているが二重口縁で脚台状の底部を伴うと思われる。36は精製の小型壷で、尖底から頸部がしまり口縁は短く外反気味に立ち上がる。頸部屈曲部には工具による押さえ痕が残る。37・38は二重口縁壷である。39は長頸壷の口縁と思われる。内側口唇端部は部分的に面取りされ口縁外面に櫛描波状文を施す。胎土は良好である。42は高杯で杯部が欠損しているが、脚部は脚柱下部で３ヶの透かしを配し屈曲して椀状の裾部が広がる。胎土、焼成とも良好である。43は鉢で脚台状の底部からなだらかに立ち上がり、口縁は短く外反する。屈曲部には右上がりカキアゲが



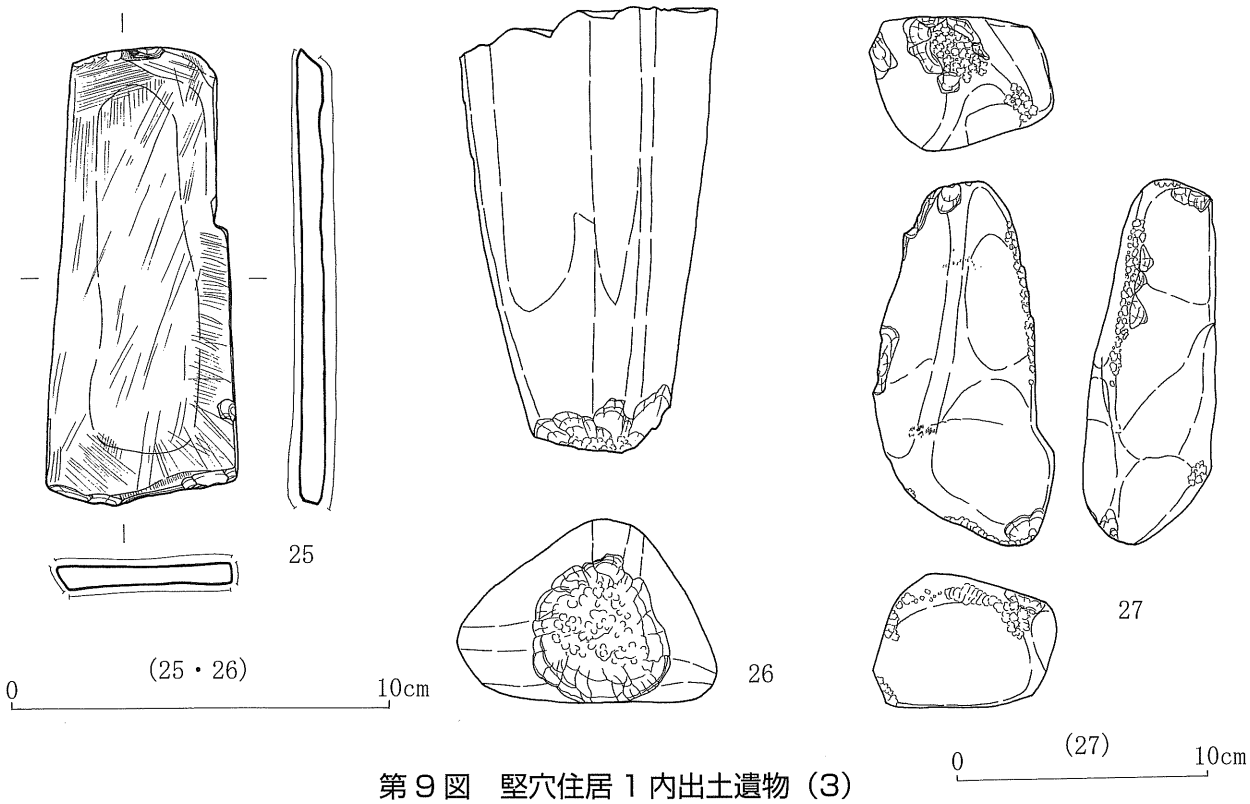

第６図　竪穴住居１（SA01）




第７図　竪穴住居１内出土遺物（1）




第８図　竪穴住居１内出土遺物（2）




第９図　竪穴住居１内出土遺物（3）

残る。口縁内面をめぐるようにススの付着がみられ、蓋として使用された可能性がある。46 は底部のみだが壷形と思われ、平底様の底部は削りだす。堅緻である。47 は椀状で底部は低い台状の平底である。51 ～ 58 はミニチュア土器である。59 は直背直刀、片刃、60 は方形抉り入り石包丁である。65 は黒色頁岩製の石核である。74・75 は砂岩製の石皿である。

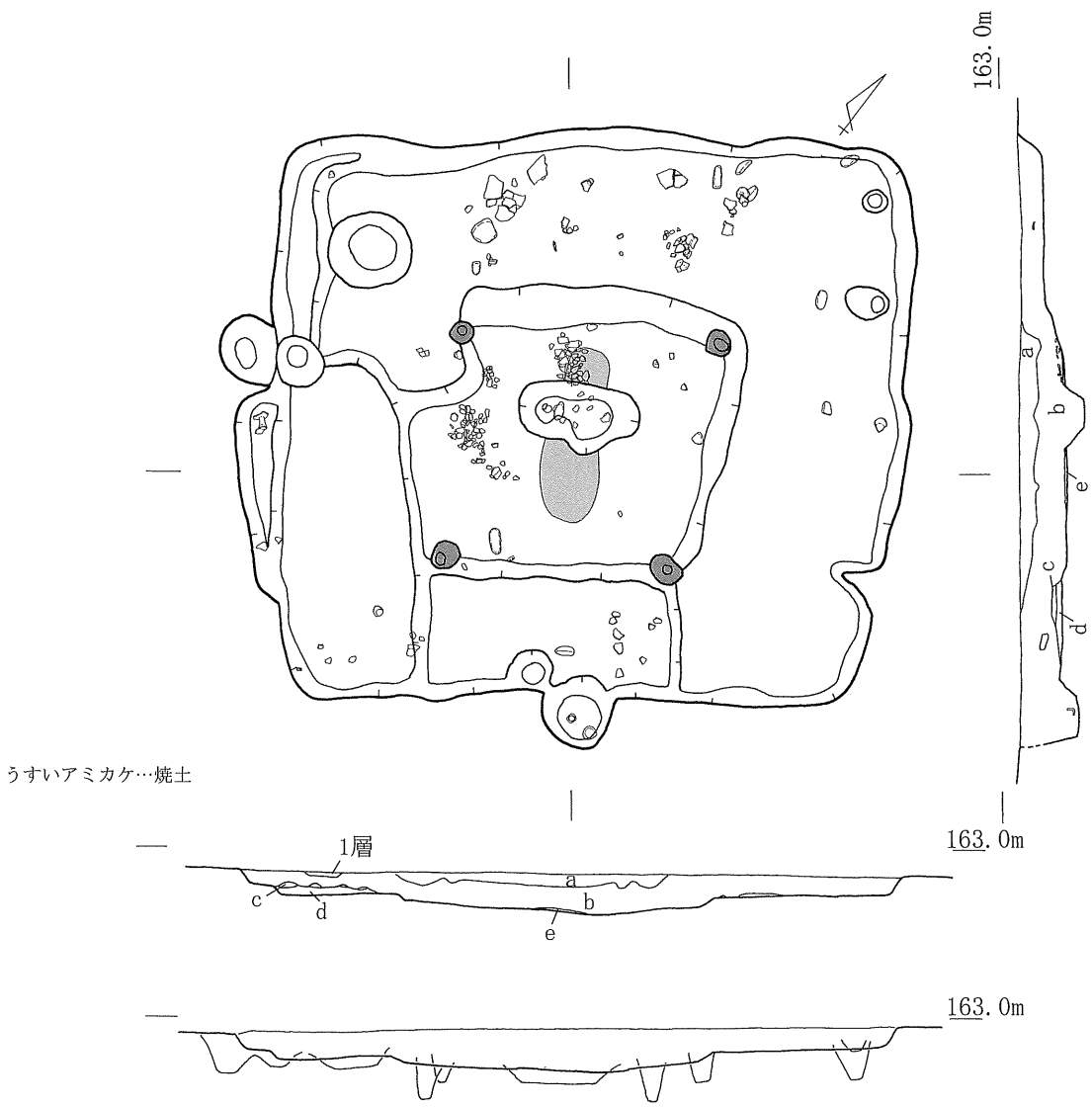
**竪穴住居３(SA03)**　7－c 区で確認した。方形の竪穴住居で東に間仕切り壁を有する。西南角付近では0.4 m × 1.3 mほどの突出部がある。規模はおおよそ東西辺が5.0 ～ 5.4m、南北辺5.5 mほどを測る。真北より西へ7°ほど傾く。方形の壁際に中央よりやや高いベット状遺構を廻らす。ベット状遺構はレベル差があり、一番高いのが北西部分のもので、北西コーナー付近に浅い壁帯溝を確認した。次が西･南･東辺にコの字状に配し、一番低いのが北辺中央部分である。中央は縦長の方形で一段下がっている。東南隅以外に柱穴、東南側に土坑を伴い、南辺側に不定形の浅い落ち込みに敲石や石皿を重ね置いている。また、中央土坑埋土から棒状珪酸体が多量に出土している。

**出土遺物**　76･77は甕で外面にタタキ痕が残る。78は高さ22.1cm、胴部最大径がほぼ中央付近で20.6cmの球体の体部に短く外傾する口縁をもつ。底部は丸底である。79は最大高20.6cm、胴部最大径は中央やや上位で18.9cm、体部はやや面長で、口縁は外反気味に立ち上がる。底部は丸底に近い。81は蓋で先端にススが付着する。83～85はミニチュア土器である。86～92は敲石（90は敲・磨石）、93･94は石皿でいずれも砂岩である。

**竪穴状遺構１(SX01)**　7－f 区で検出した。略東西方向 2.08 m、略南北方向 2.14m、床面最深 0.35m ほどを測るほぼ正方形のプランである。真北から約 18°東へ傾く。主柱穴は中央に２穴、深度は床面より 10cm ほどである。遺物は遺構検出面に到達する以前より出土し、遺構検出後もかなりの量が出土した。北西側にピット１を検出している。埋土の基調は３層である。

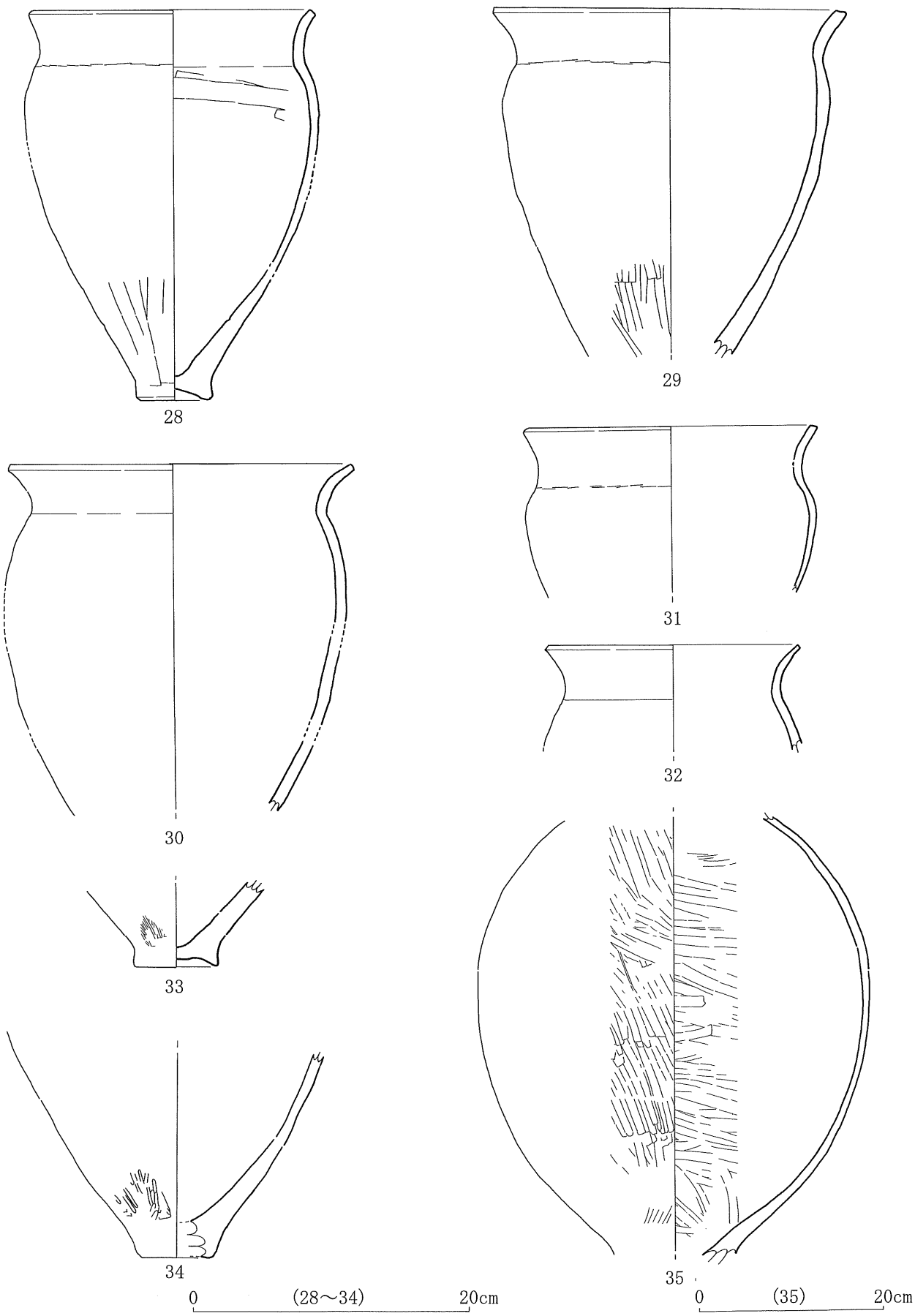
**出土遺物**　95～100までは甕である。口縁屈曲は緩慢で稜をもたない、96･97は屈曲部に刻目突帯を貼り付け廻らす。最大径が口縁径のもの（95･96･97･98）のみである。99・100は胴部外面にタタキ

痕を残す。101は壷で現存高31.2cm、胴部最大径はほぼ中央で34cmを測る。中央直下に１条の刻目突帯を廻らす。底部は低い脚台状である。 102は小片であるが免田式長顎壷の胴部と思われ、甘い屈曲部直上には現存2条の横位沈線と上向きの重弧文を施す。 103は直口壷で器壁は薄く焼成も良好である。104は器高12.6cmほどの小型の壷で、押し潰された台状の平底から膨らみのある胴部に口縁はカキアゲを施し内傾気味に真直ぐ立ち上がる。成形は荒く、器壁も厚い。105は直口壷で口縁内面にススの付着がみられる。106は頸部が欠損しているが長頸壷と思われる。体部高は13.5cm、胴部最大径23cmで胴上半はミガキ、下半はハケメ調整を残す。110は高杯の脚柱部で円形の透かしを3ヶ配置し、裾はラッパ状に開くと思われる。111・112は器台で柱部に111で現存1ヶ、112で2ヶ円形の透かしがみられる。色調は111が白色系、112が褐色系である。114は頁岩製の石包丁片、115は叩石、116は叩・磨石で両方とも石材は砂岩である。

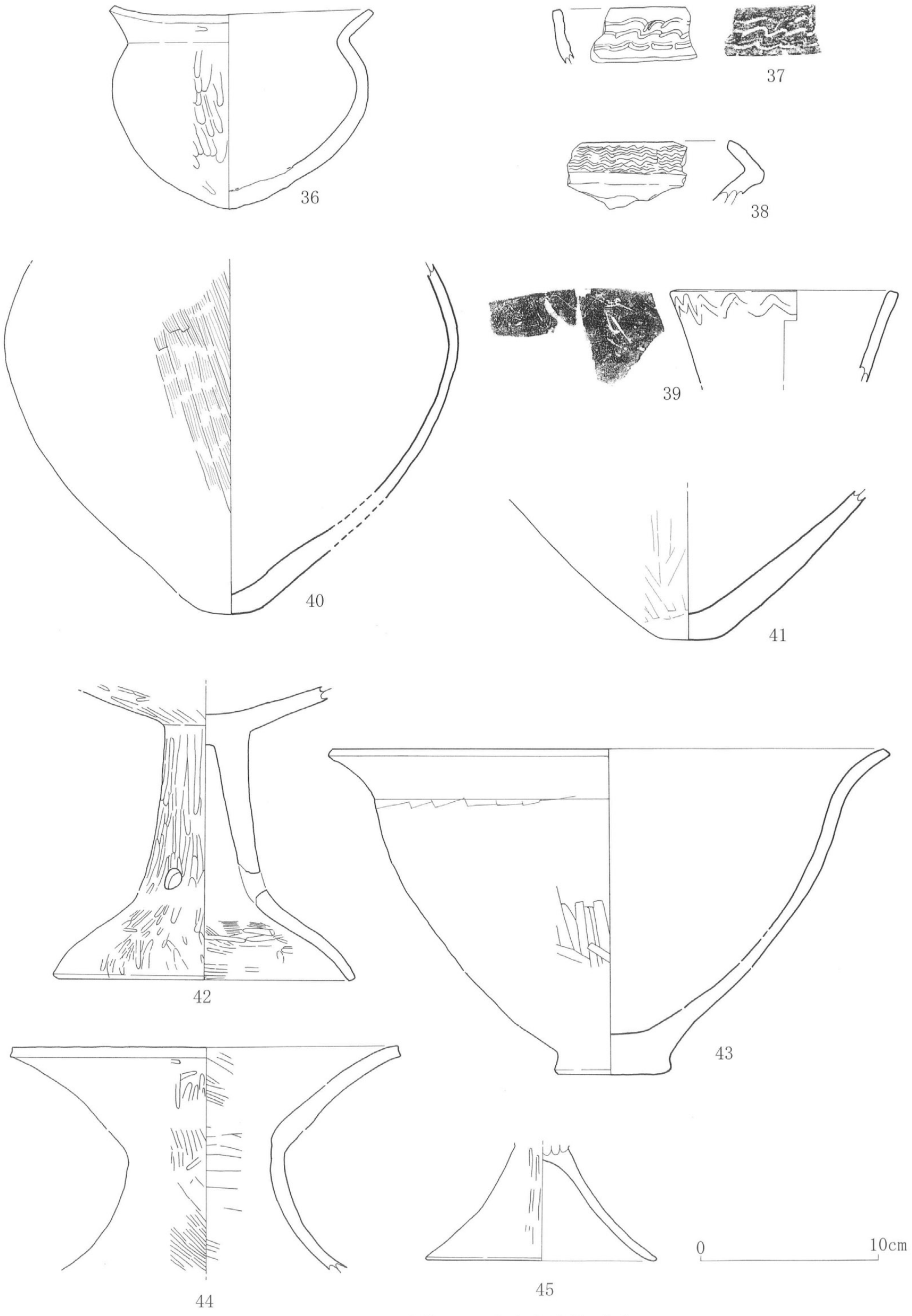



| | |
|---|---|
| a | ３層黒色土（やや硬質）に細粒御池ボラを万遍なく含む |
| b | 明黒色土（やや硬質・粘質）に多量の御池ボラを万遍なく含む |
| c | 御池ボラに少量の黒色土が混ざるブロック |
| d | 黒色土に御池ボラを少量含む |
| e | 褐色粘質土に黒色土、粗細粒御池ボラと炭が混じり硬化している |

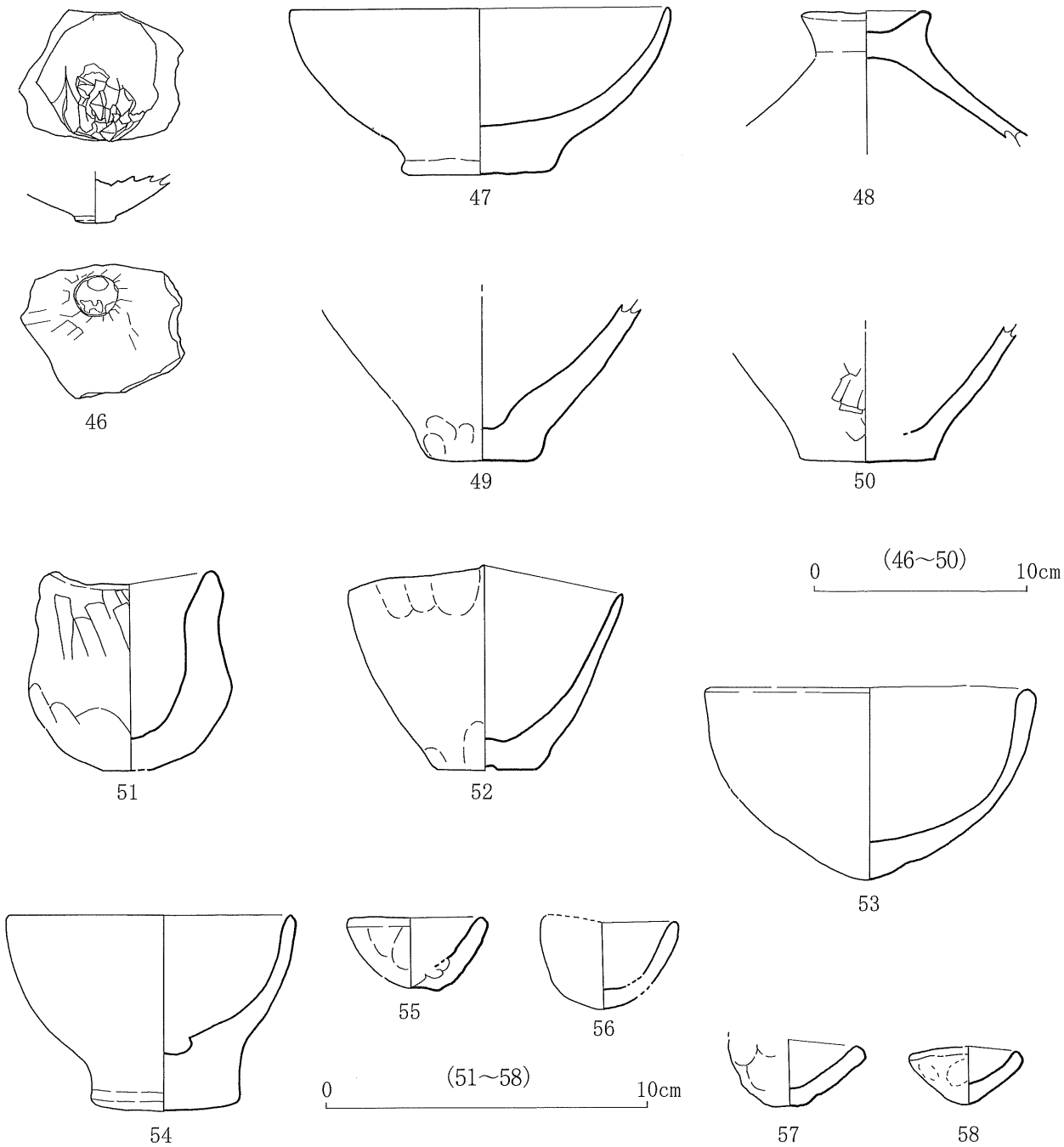
第１０図　竪穴住居２（SA02）



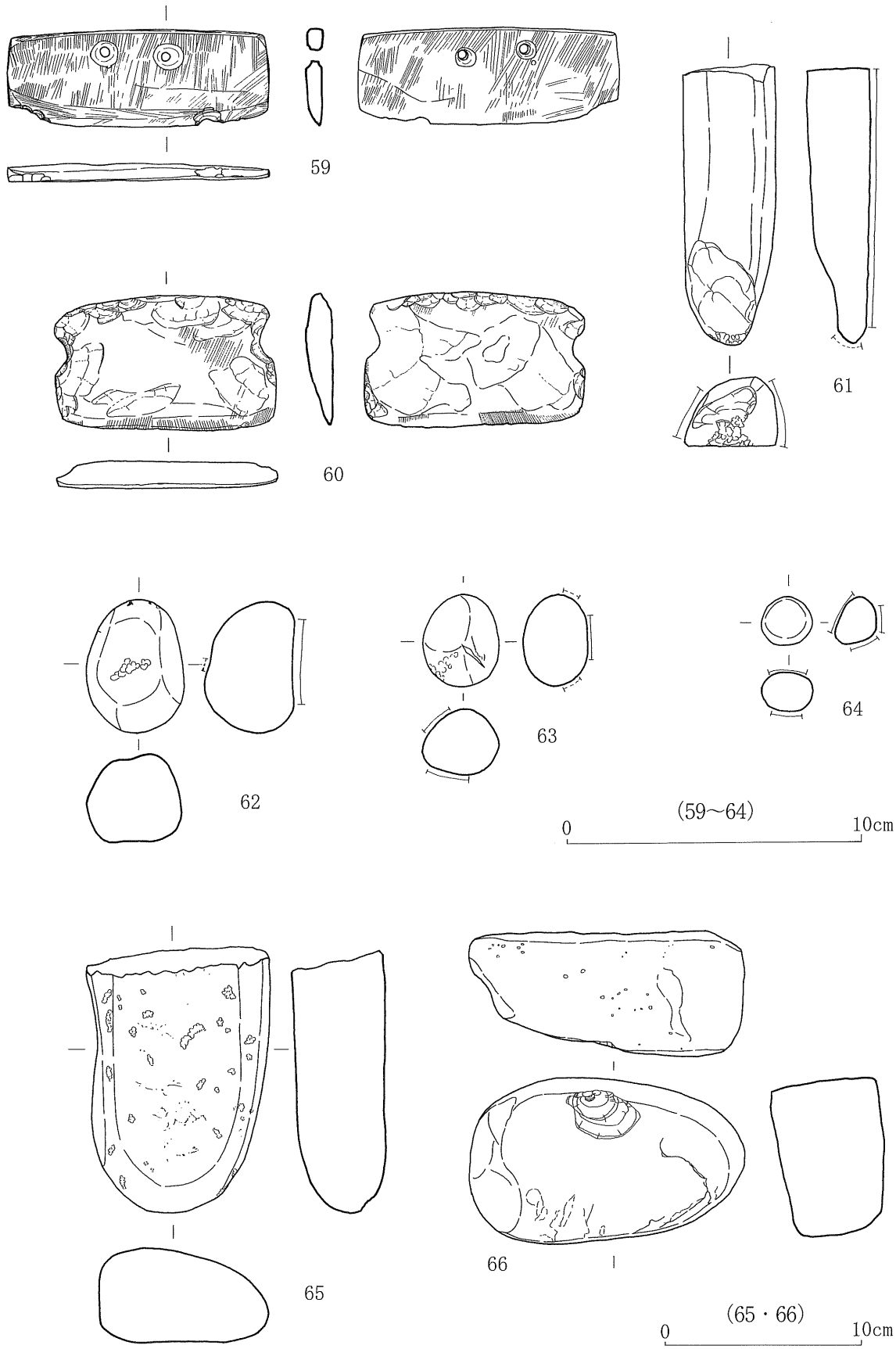

第11図　竪穴住居２内出土遺物（1）



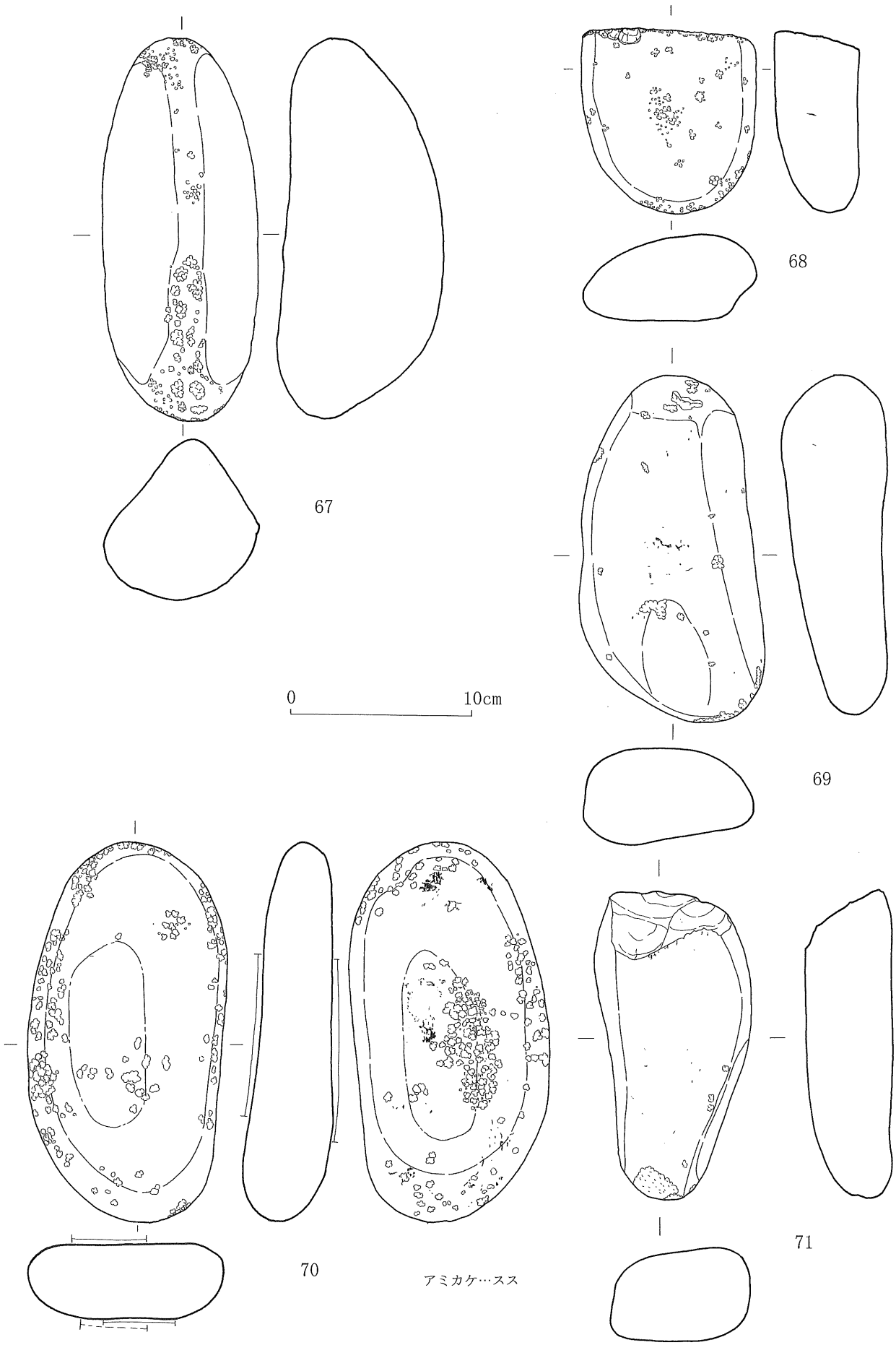

第 12 図　竪穴住居 2 内出土遺物（2）



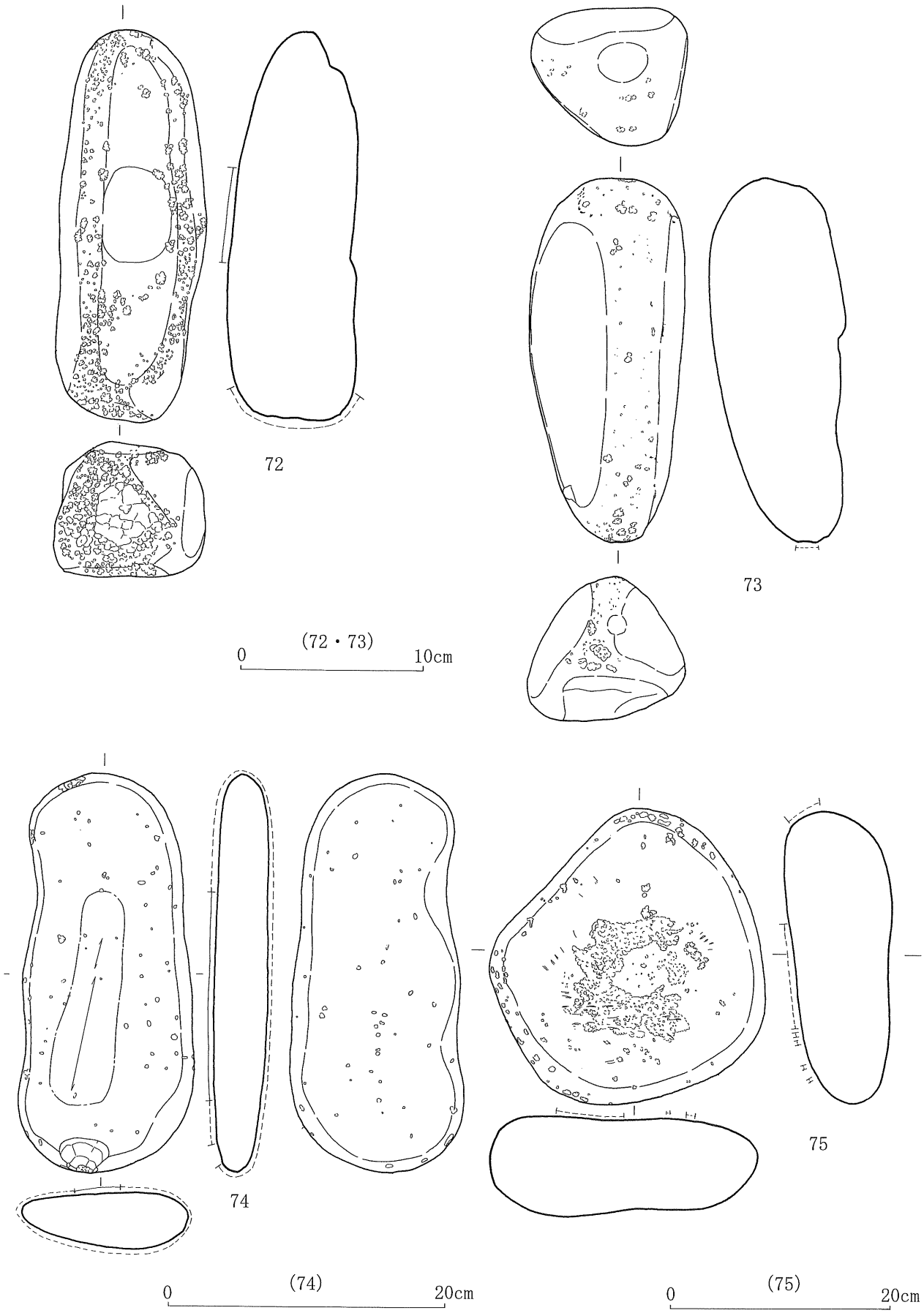

第 13 図　竪穴住居 2 内出土遺物（3）




第14図　竪穴住居2内出土遺物（4）




第15図　竪穴住居2内出土遺物（5）




第16図　竪穴住居2内出土遺物（6）

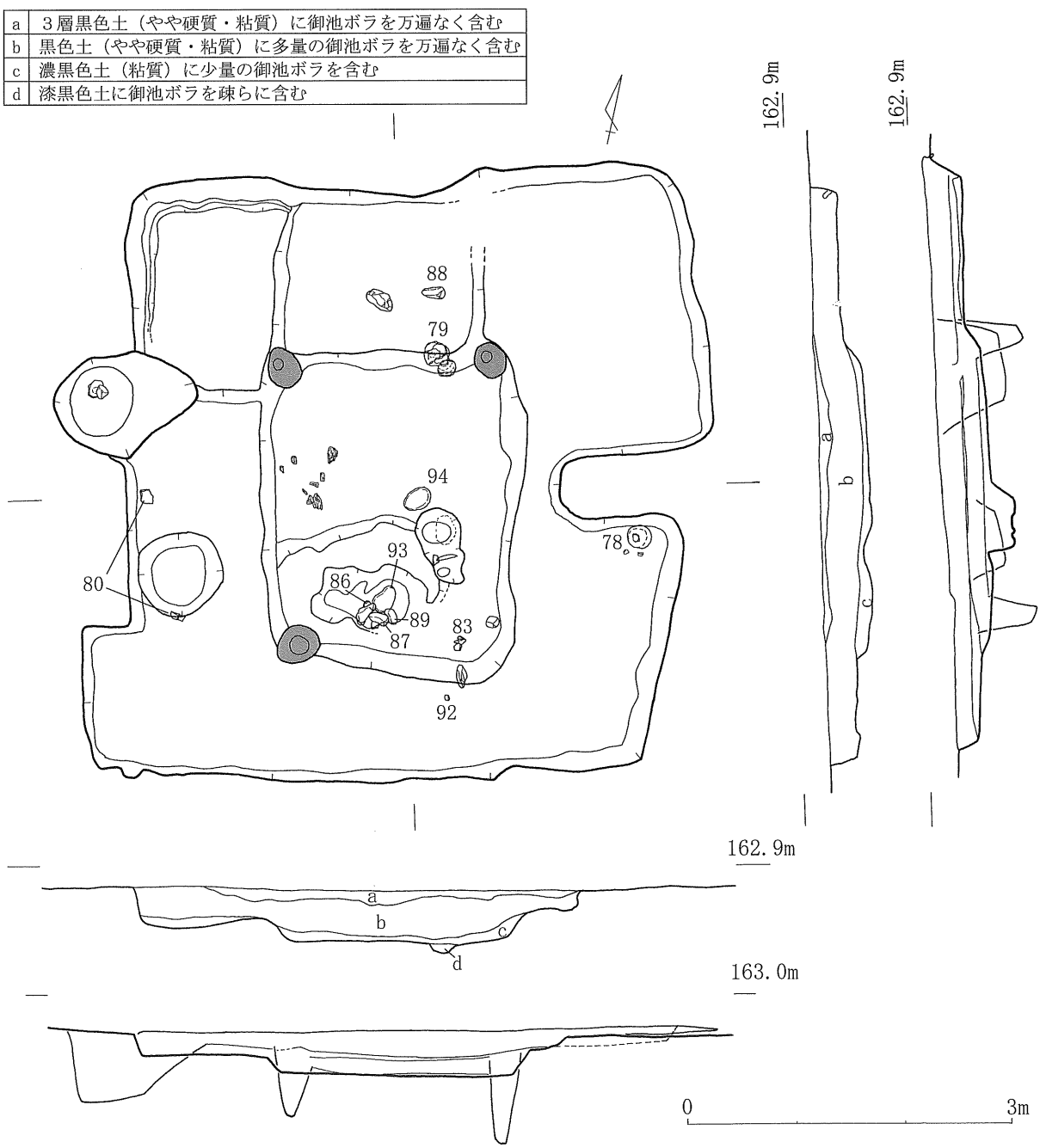
**その他の遺構**　4－c区、手づくね土器(117・118)が入子状でほぼ水平に出土した。3 a層中で出土したが遺構は確認できなかった。

土坑1(SC01)は7－b区、竪穴住居3の北側で検出した。検出面で径1mほどの円形プランで、深さは検出面より約0.5mを測る。埋土は第3層を基調とする。

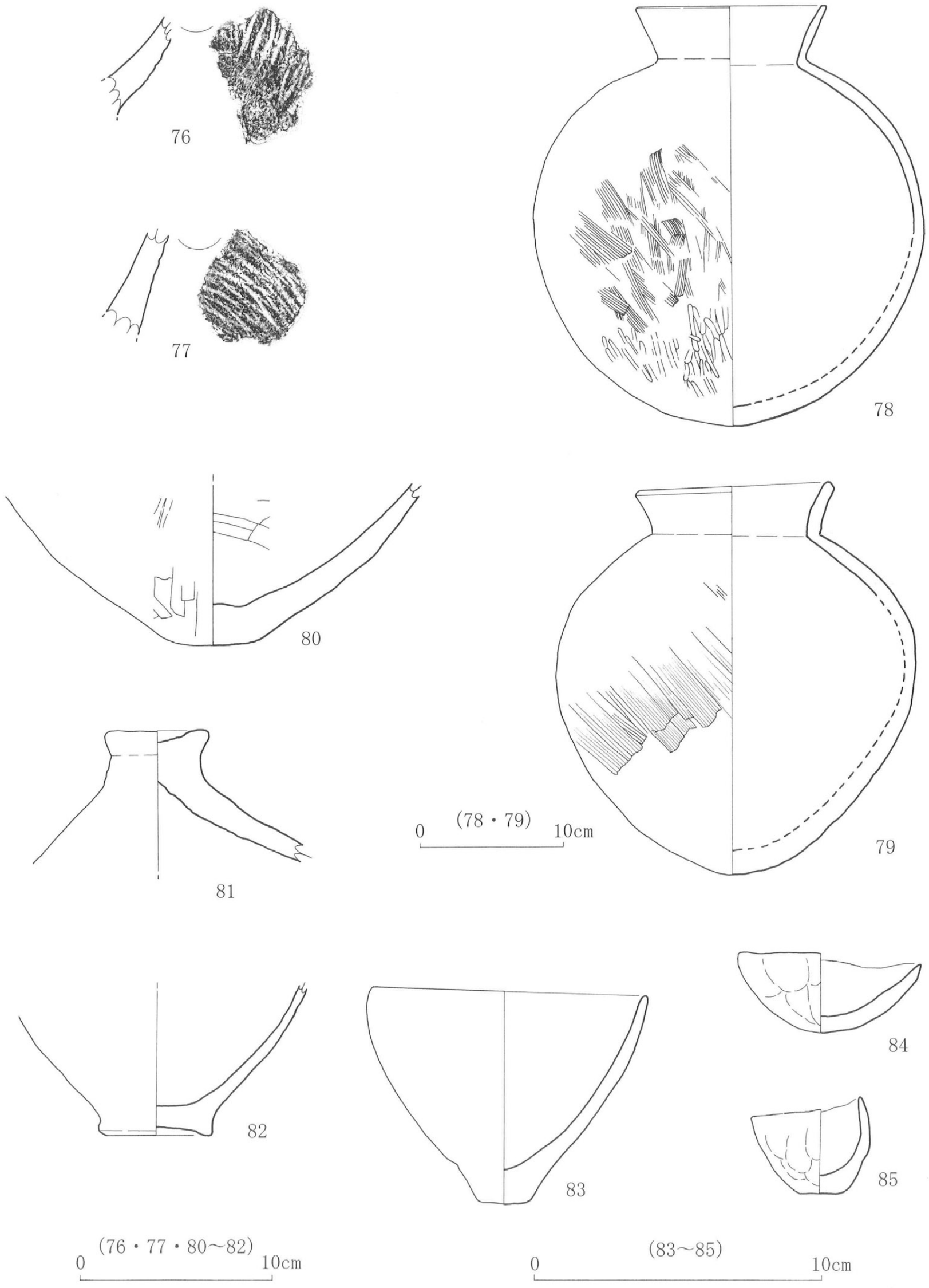
ピット1(P01)は7－f区、竪穴状遺構1の北側直で出土した。南北方向50cm、東西40cmの楕円形を呈する。深度は浅く検出面より20cm弱である。埋土は第3層である。

ピット2(P02)は7－b区、土坑1の北側に出土した。径30cmの略円形で、検出面より深さ0.5mほどを測る。埋土は第3層がベースである。

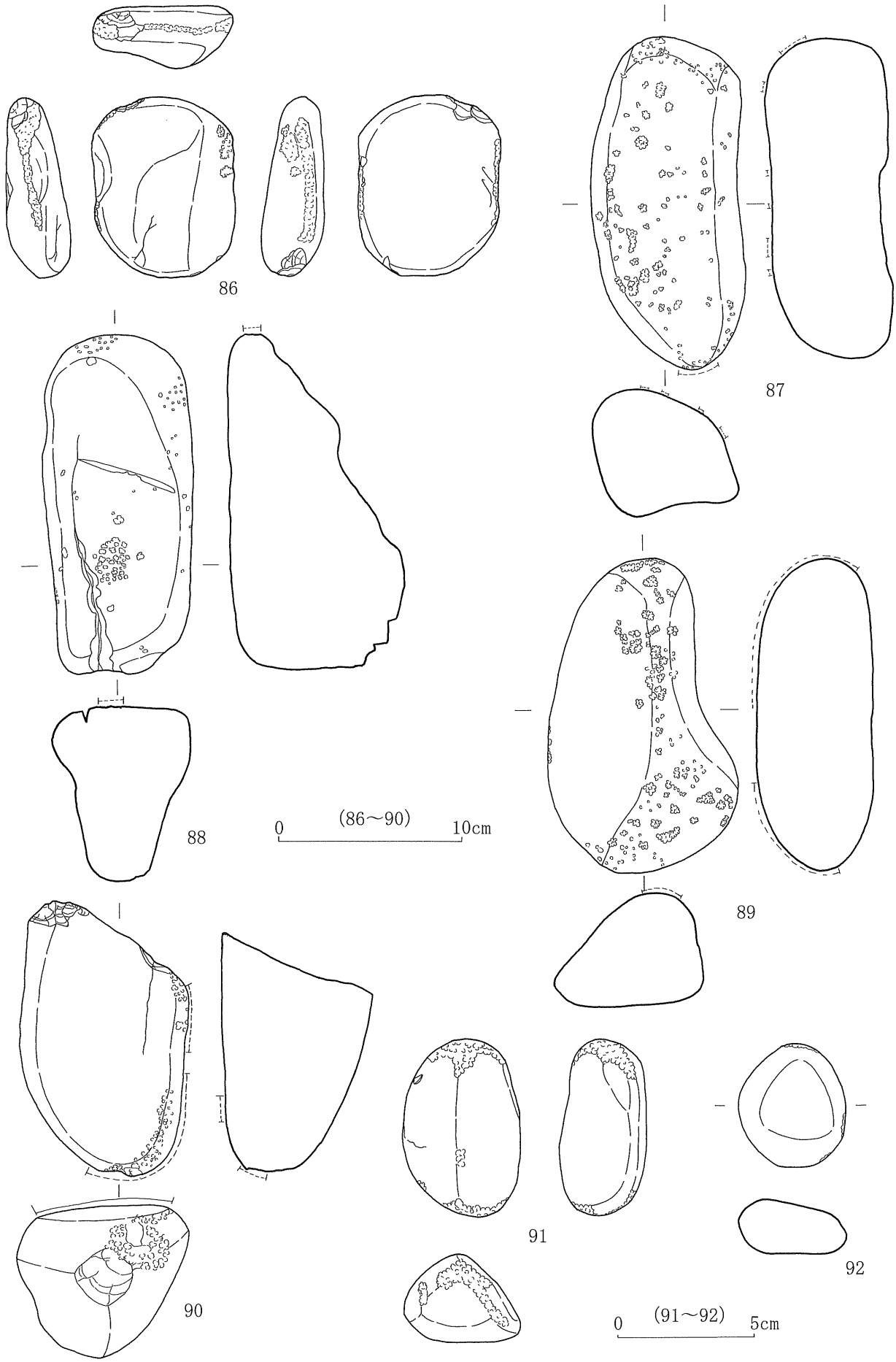
ピット3(P03)は7－b区、土坑1の南側で確認した。径25cmの円形で、検出面より深さは15cmと浅い。埋土はピット2と同様である。



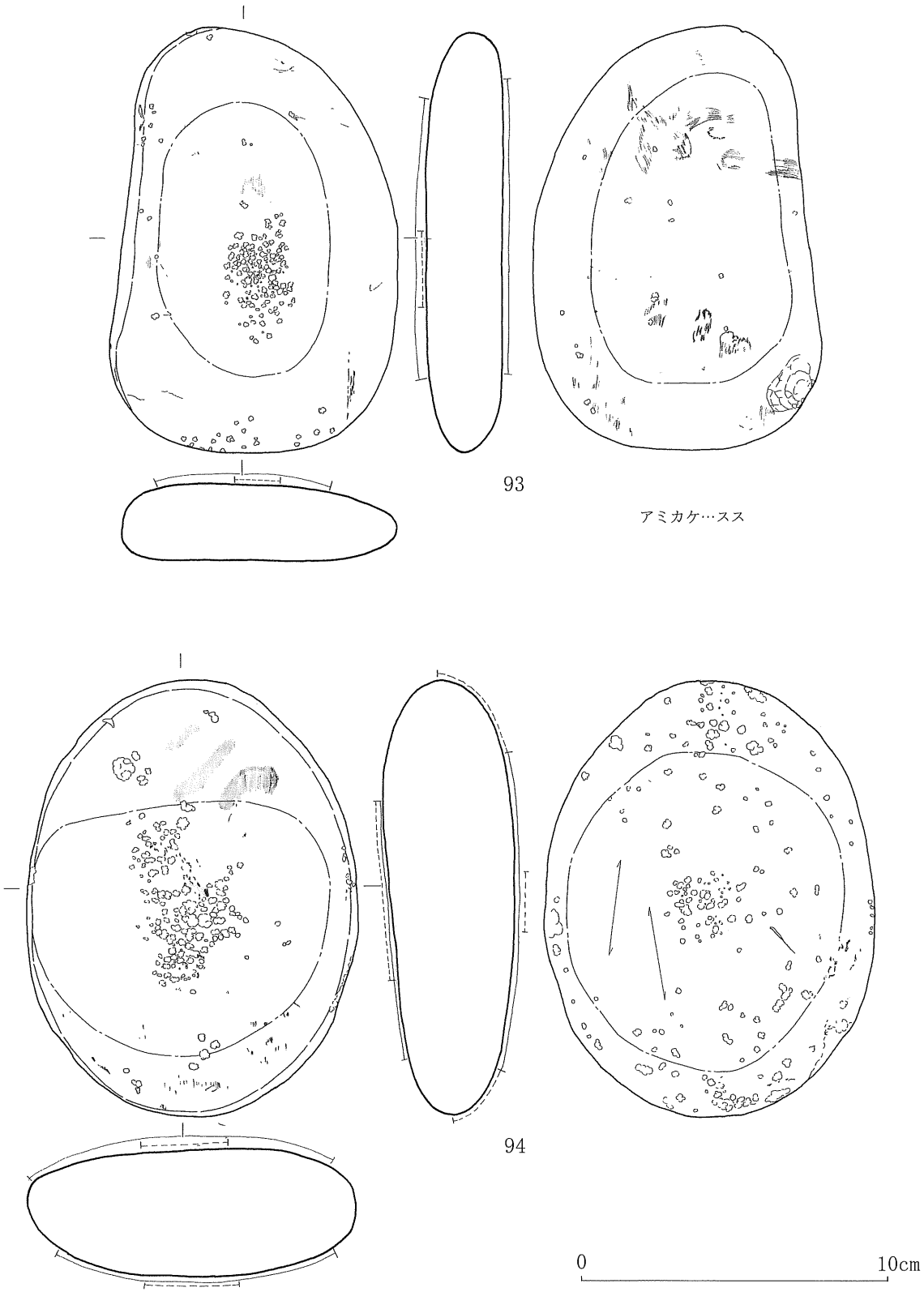

第17図　竪穴住居3（SA03）




第 18 図　竪穴住居 3 内出土遺物（1）

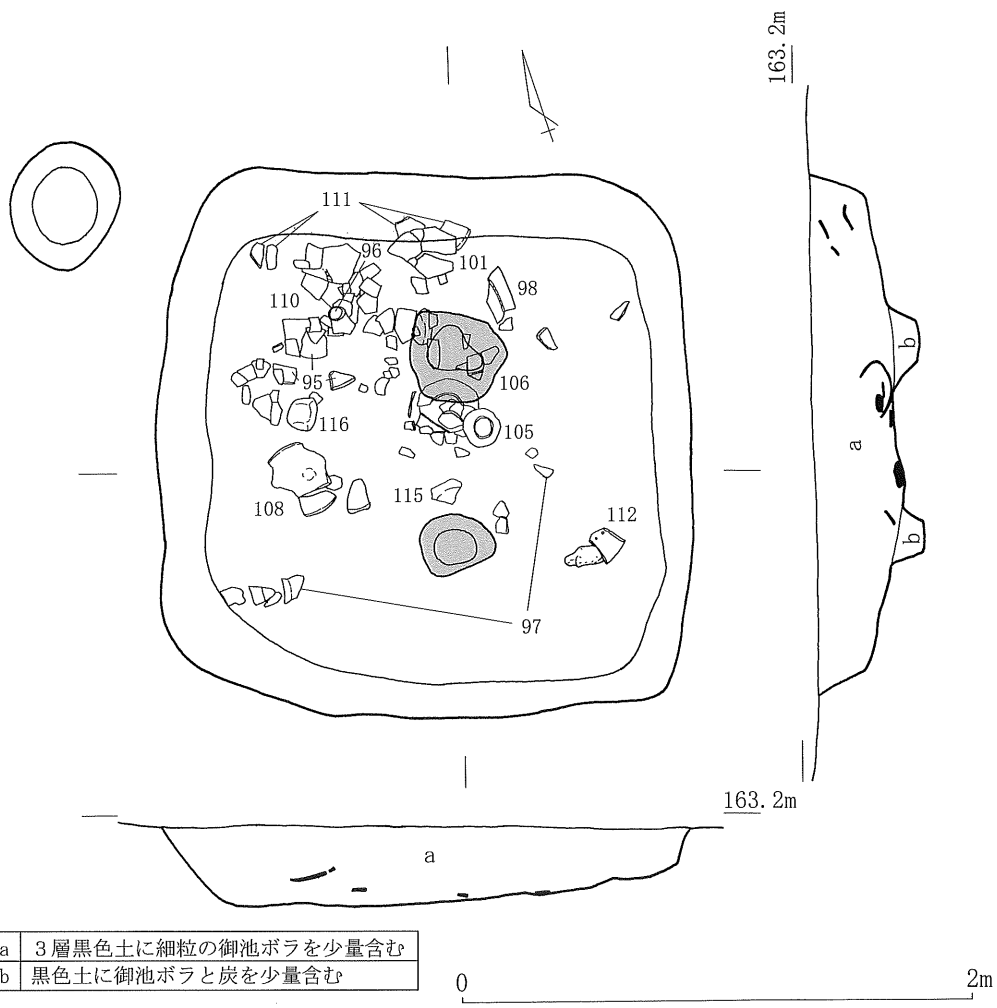



第19図　竪穴住居3内出土遺物（2）



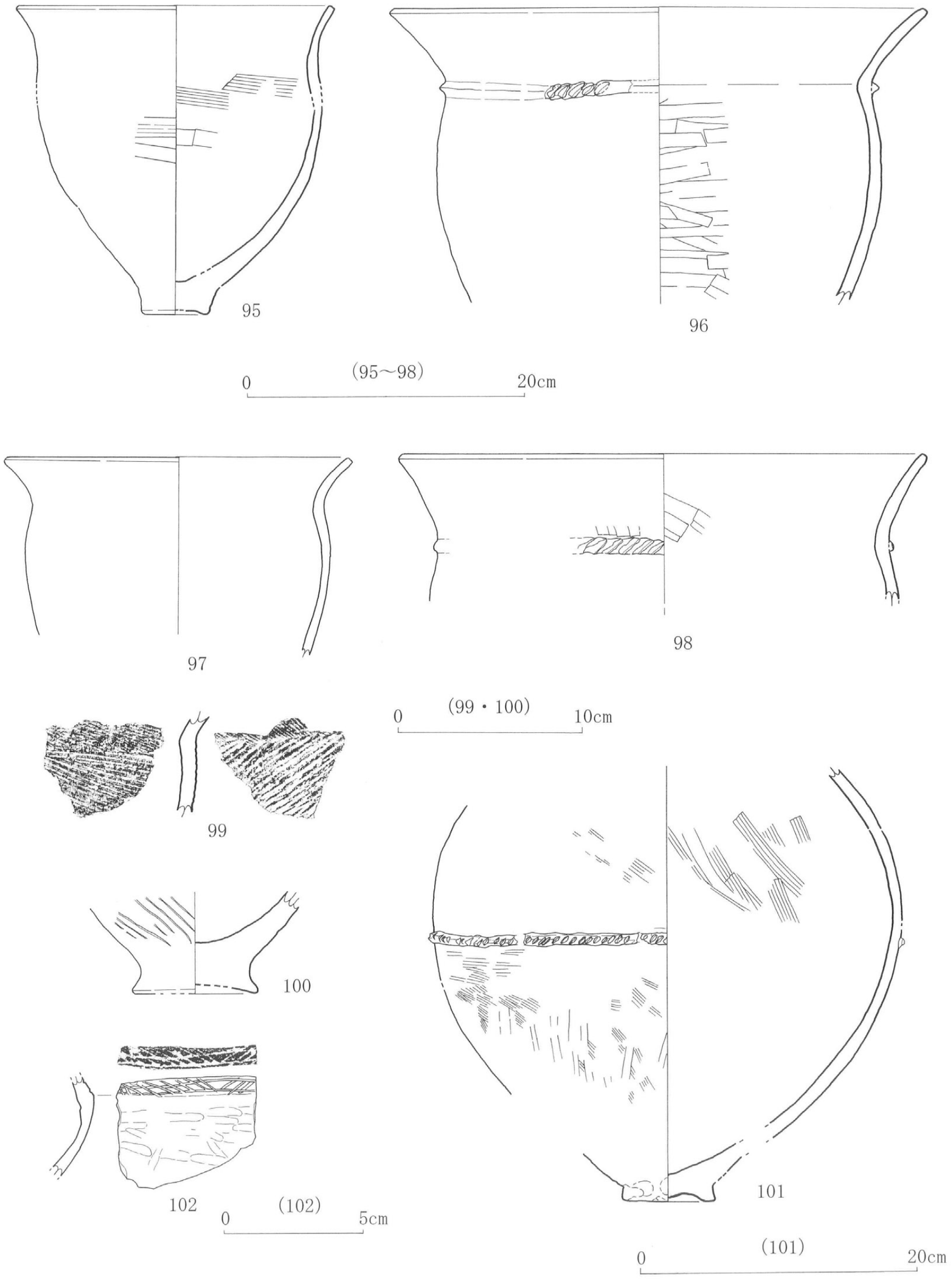

第20図　竪穴住居3内出土遺物（3）

**包含層出土遺物**　119・120・121は縄文晩期初頭の黒色磨研土器で、口縁部に２条の沈線を横位に廻らす。122～142はいわゆる手づくね土器である。129は天地不明であるが、先端部に穿孔がある。内外ともミガキ、特に外器面は縦方向のミガキが鮮明である。 ほかの手づくね土器と違い胎土に鉱物等が含まれず精緻で焼成も良好である。143は１-a区第3a層中で、口縁を若干欠損しているのみで横転した状態で出土している。124・127のミニチュア土器が近くに伴っていた。144は器高11.5cmほどの小型の壷形土器である。底部は台状の平底からなだらかに立ち上がり、頸部のしまりは鈍く口縁はそのまま垂直に延びる。146は有孔鉢で底部に1.5cmほどの穿孔を有する。胴下部片だが、タタキ痕を残す。107・108は器台と思われる。149・150は杓子形土器で、149は椀の部分が一部欠損しているが全長11.2cm、椀径６cm、把手は35°の傾きで椀と接合している。151～160は甕、161は壷、162は蓋と思われる。163・164は打製石鏃。165は方形片刃の石包丁で側部は打ち欠きと他方は穿孔（２ヶ所）がみられる。

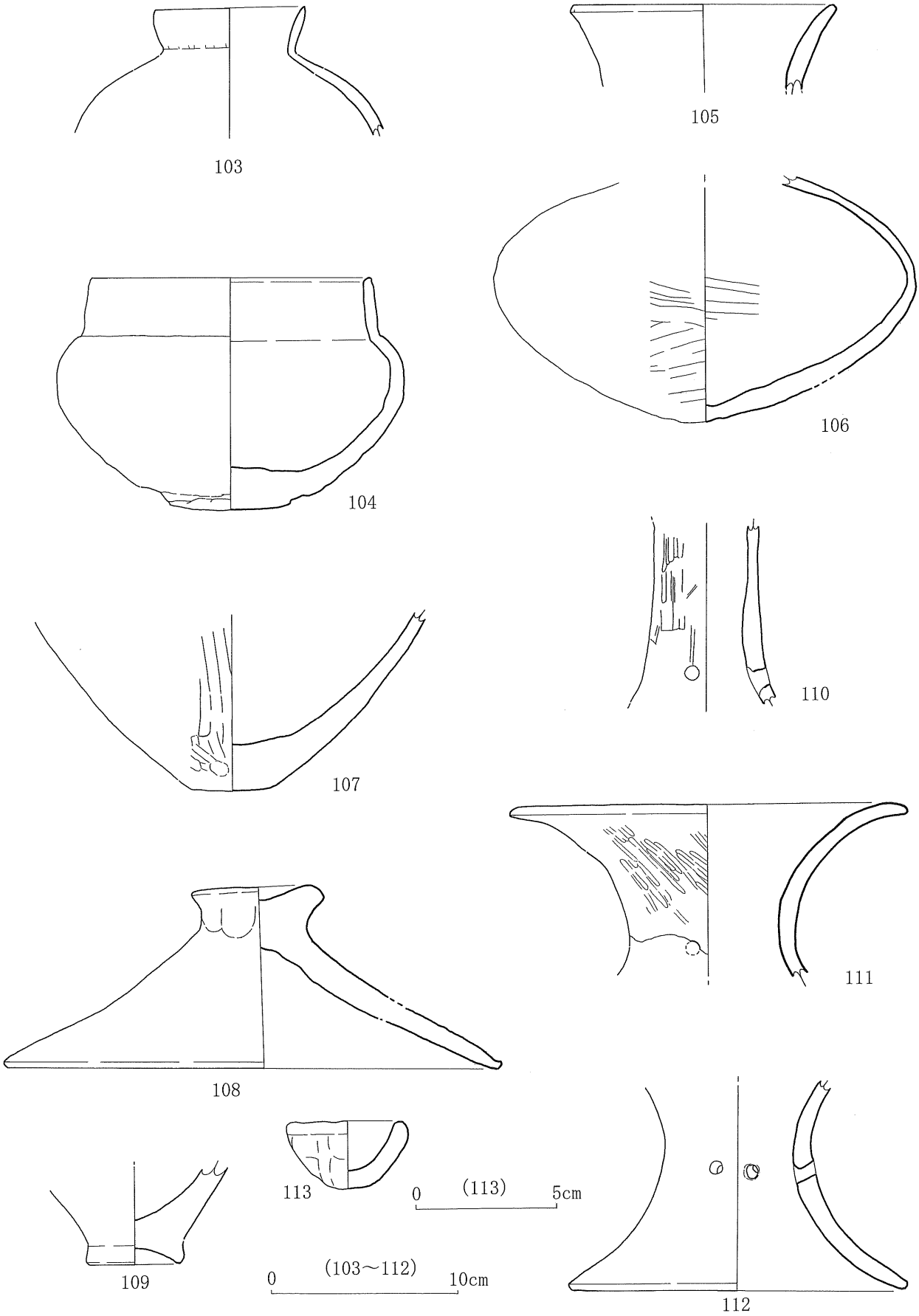



| | |
|---|---|
| a | ３層黒色土に細粒の御池ボラを少量含む |
| b | 黒色土に御池ボラと炭を少量含む |

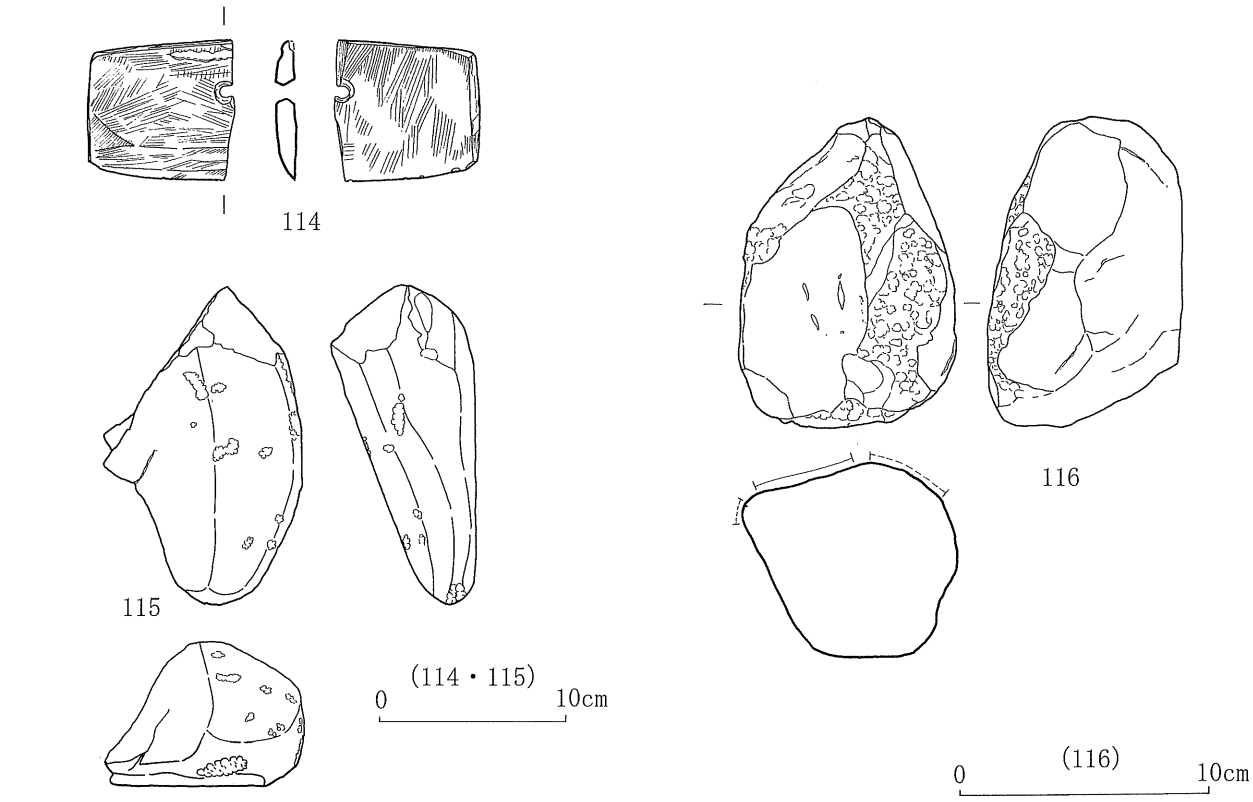
第21図　竪穴状遺構１（SX01）



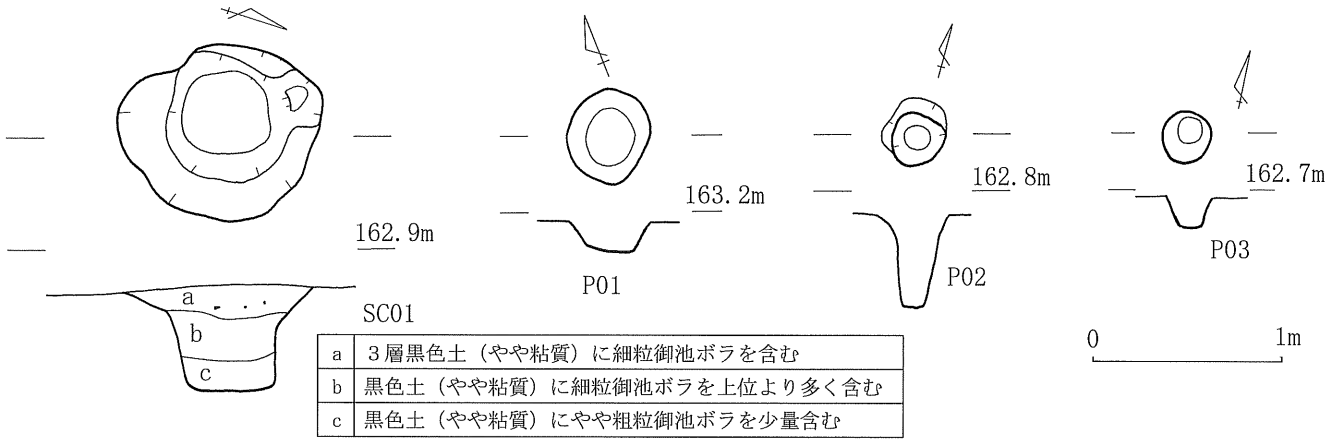

第22図　竪穴状遺構1内出土遺物（1）




第23図　竪穴状遺構1内出土遺物（2）

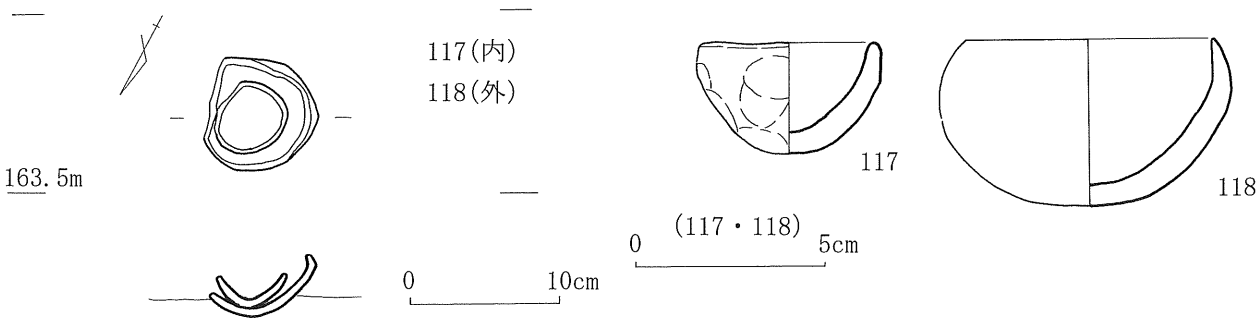



第24図　竪穴状遺構1内出土遺物（3）

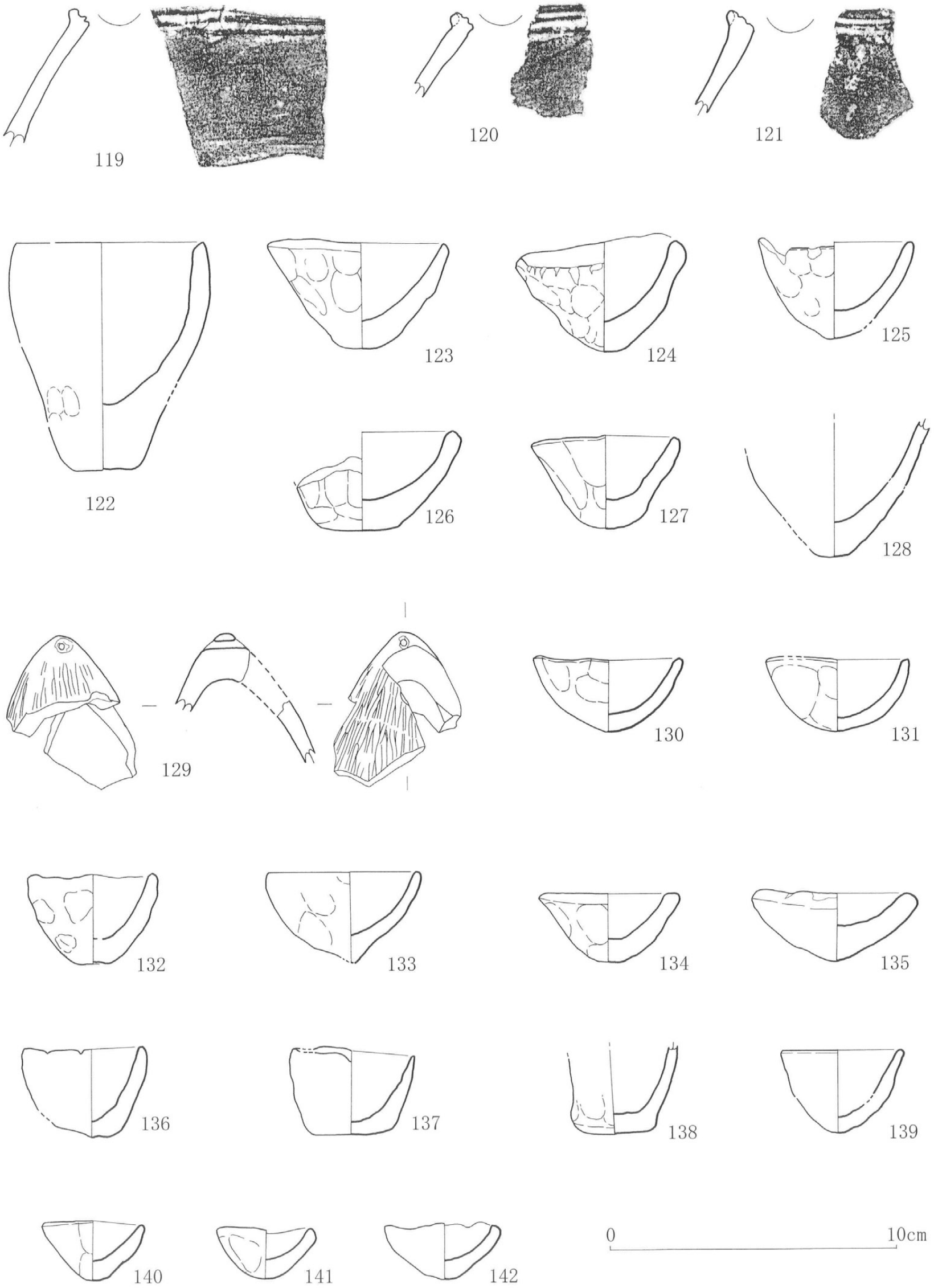



| | |
|---|---|
| a | 3層黒色土（やや粘質）に細粒御池ボラを含む |
| b | 黒色土（やや粘質）に細粒御池ボラを上位より多く含む |
| c | 黒色土（やや粘質）にやや粗粒御池ボラを少量含む |

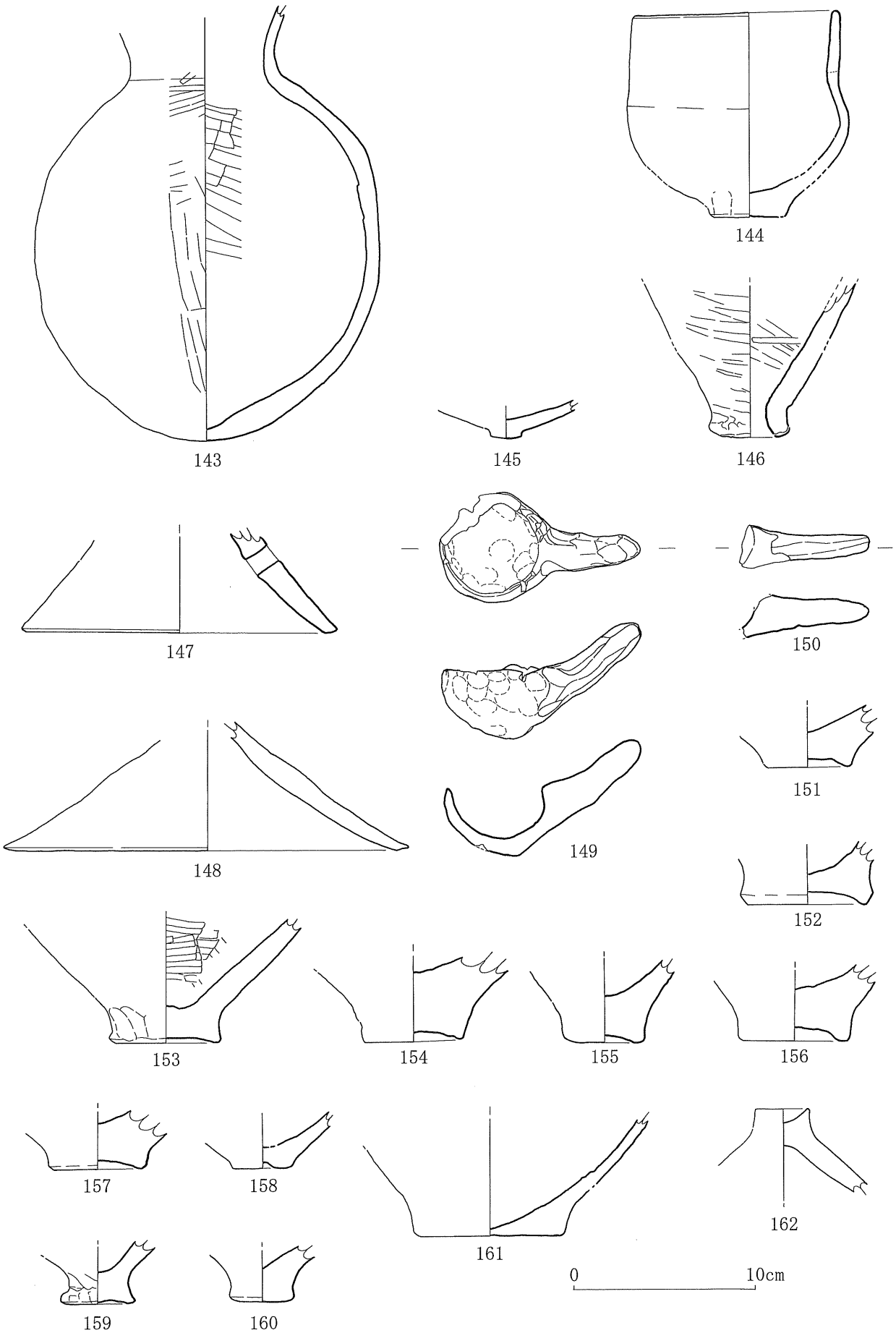
第25図　土坑・ピット



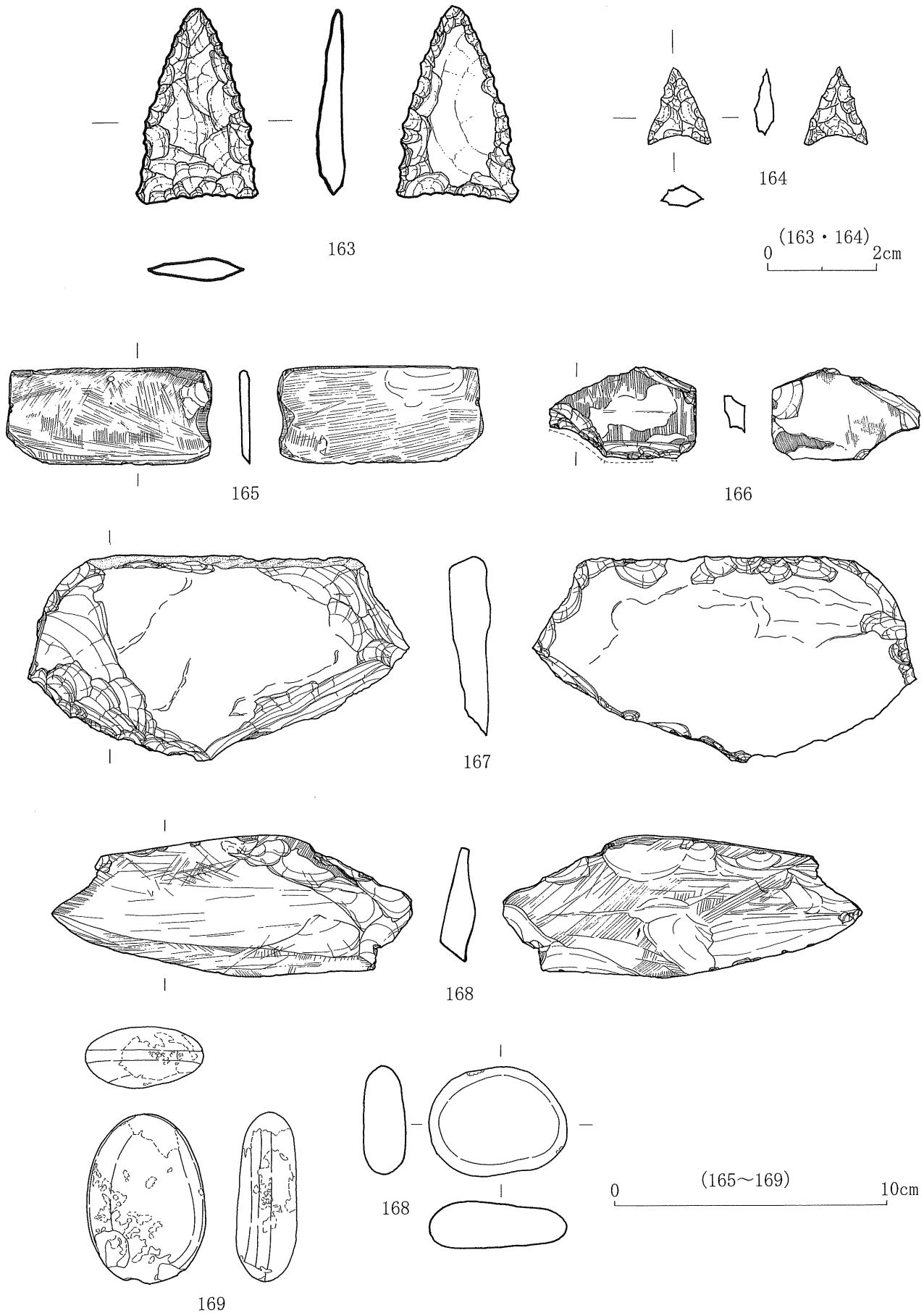

第26図　入子




第 27 図　包含層出土遺物（1）




第 28 図　包含層出土遺物（2）




第29図　包含層出土遺物（3）

出土遺物観察表①

| 挿図 | 番号 | 器種 | 取上げ番号 | グリッド | 出土遺構層位 | 法量(cm)（反転復元） | | | 調整 | 備考 | 胎土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 第7図 | 1 | 甕 | 1294 1451 | 3－a | SA01 | (19.6) | － | － | 外：口縁横方向のナデのち斜めのミガキ<br>内：ナデ | 頸部にカキメ<br>外面スス付着 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 2 | 甕 | 369<br>1643 | 3－a | SA01 | (22.2) | － | － | 外：ナデ　頸部カキアゲ<br>内：ナデ | 外面スス付着 | 5mm大以下の鉱物を含む |
| | 3 | 甕 | 1648 1906<br>1987<br>1756 | 2－a<br>3－a | SA01 | 19.0 | － | － | 外：ナデ　頸部カキメ<br>内：ナデ | 口縁端部にスス付着 | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 4 | 甕 | 1597 | 3－a | SA01 | (20.2) | － | － | 外：頸部粗いカキアゲ口縁斜めのハケメ<br>内：ナデ | 外面胴部スス付着 | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 5 | 甕 | 1303 1370<br>1386 1389 | 3－a | SA01 | (18.6) | － | － | 外：口縁横方向のハケメ<br>内：ナデ | 内外面とも剥離が激しい | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 6 | 甕 | 1312 1387<br>1395 | 3－a | SA01 | (24.0) | － | － | 外：頸部浅いカキメ　上位ヨコナデ<br>内：ナデ | | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 7 | 甕 | | 3－a | SA01 | (16.3) | － | － | 外：ヨコナデ　頸部浅いカキメ<br>内：ヨコナデ | 外面スス付着 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 8 | 甕 | 1583 1585 | 3－a | SA01 | － | － | － | 外：ナデ　内：ナデ | 内面輪積み痕明瞭 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 9 | 甕 | 1761 | 2－a | SA01 | － | － | － | 外：斜め（右下がり）タタキ<br>内：ナデ | 外面スス付着 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 10 | 甕 | 1293 | 3－a | SA01 | － | (8.5) | － | 外：ハケメ　内：ナデ | 平底 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 11 | 甕 | 1907 | 3－a | SA01 | － | (4.0) | － | 外・内：ナデ | 上げ底 | |
| | 12 | 甕 | 1578 | 3－a | SA01 | － | (4.2) | － | 外・内：ナデ | 上げ底状 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| 第8図 | 13 | 壷 | 1776 1822<br>1341 1347<br>1412 333 | 3－a<br>3－b | SA01 | 17.4 | － | － | 外：ナデ　胴上部一部ミガキ<br>内：頸部下指押え | スス付着 | 5mm大以下の鉱物を含む |
| | 14 | 壷 | 329 1592<br>1413 332 | 3－a<br>3－b | SA01 | (16.7) | － | － | 外：ナデ<br>内：ナデ | | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 15 | 壷 | 1375 1407 | 3－a | SA01 | (15.4) | － | － | 外・内：ナデ | | 5mm大以下の鉱物を含む |
| | 16 | 壷 | 1644 1643<br>1980 | 3－a | SA01 | (15.2) | － | － | 外：ナデ<br>内：ナデ | | 6mm大以下の鉱物を含む |
| | 17 | 壷 | 1307 | 3－a | SA01 | 9.3 | － | － | 外：縦方向のミガキ<br>内：縦方向のミガキ（器面剥落） | 口唇下1.5cm幅に櫛描波状文 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 18 | 高杯 | 2248 | 3－a | SA01 | － | 脚部径<br>(13.8) | － | 外：縦方向ミガキ<br>内：脚柱部はの左回転のケズリ状の工具ナデ | 円形透かし5ヶ所　焼成堅ち | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 19 | 高杯 | 1981 1985<br>2035 | 3－a | SA01 | － | 脚部径<br>(11.4) | － | 外：縦方向のハケメ<br>内：ナデ | | 内外面とも風化大　3mm大以下の鉱物を含む |
| | 20 | 深鉢 | 1594 1672<br>1639 1673 | 3－a | SA01 | 14.3 | 2.2 | 15.4 | 外：ナデ<br>内：ナデ | 口唇に浅い刻み？<br>輪積痕 | 5mm大以下の鉱物を含む |
| | 21 | 甕 | 1291 1292<br>1384 | 3－a | SA01 | － | (3.2) | － | 外：ナデ<br>内：ナデ | | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 22 | 有孔鉢 | 1770 | 3－a | SA01 | － | 2.5 | － | 外：ナデ<br>内：ナデ | | |
| | 23 | 壷 | 1605 | 3－a | SA01 | － | 5.0 | － | 外：ナデ<br>内：しぼり痕 | | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 24 | 壷 | 1282 | 3－a | SA01 | － | 8.5 | － | 外：工具状のナデ | | 3mm大以下の鉱物を含む |
| 第11図 | 28 | 甕 | 2067 2249 2251<br>2255 2260 2273<br>2274 2275 2276<br>2277 2282 2321<br>2326 2342 | 5－C | SA02 | 20.9 | 5.6 | 28.3 | 外：口縁横方向の工具状のナデ　屈曲部カキメ<br>胴下部縦方向のハケメ内：ハケメのちナデ | 胴上部にスス付着 | 6mm大以下の鉱物を含む |
| | 29 | 甕 | 2247 2249<br>2271 | 5－C | SA02 | 24.0 | － | － | 外：口縁横方向の工具状のナデ　屈曲部カキ目<br>胴下部縦方向のハケメ内：ナデ | 胴部にスス付着 | 6mm大以下の鉱物を含む |
| | 30 | 甕 | 2027 2070<br>2072 2248<br>2249 2271 | 5－C | SA02 | 25.1 | － | － | 外：口縁横方向の工具状のナデ<br>内：ナデ | 胴部にスス付着 | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 31 | 甕 | 2249 2272<br>2465 2466<br>2467 2468 | 5－C | SA02 | 21.2 | － | － | 外：口縁ヨコナデ　屈曲部カキ目<br>内：ナデ | 胴上部にスス付着 | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 32 | 甕 | 1515 1528<br>1933 | 5－C | SA02 | (18.4) | － | － | 外：口縁カキアゲのちナデ<br>内：ナデ | スス付着 | 6mm大以下の鉱物を含む |
| | 33 | 甕 | 1531 | 5－C | SA02 | － | 5.8 | － | 外：胴下部ハケメのちナデ<br>内：ナデ | 底部上げ底　焼成堅緻 | 6mm大以下の鉱物を含む |
| | 34 | 甕 | 2052 2249 2250<br>2254 2257 2258<br>2288 | 5－C | SA02 | － | (5.3) | － | 外：胴下部縦方向のハケメ<br>内：ナデ | 底部平底　焼成堅緻 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 35 | 壷 | 2278 2279 2280<br>2281 2327 1793<br>1931 2060 | 5－C | SA02 | － | － | － | 外：縦方向のハケメ<br>内：横方向のハケメ | | 3mm大以下の鉱物を含む |
| 第12図 | 36 | 壷 | 2458 | 5－C | SA02 | 14.8 | － | 11.5 | 外：口縁ミガキ　胴部タテ方向のミガキ　屈曲部工具による押さえ痕<br>内：口縁ミガキ（底部剥落） | 黒斑あり　焼成堅ち<br>底部丸底 | 6mm大以下の鉱物を含む |
| | 37 | 壷 | | 5－C | SA02 | － | － | － | 外：横方向ナデ　口縁外面に3条の櫛描波状文 | | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 38 | 壷 | 2031 | 5－C | SA02 | － | － | － | 外：二重口縁部はくの字に屈曲、口縁外面に櫛描波状文、口唇近くでは波状文をナデ消す | | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 39 | 壷 | 2048 | 5－C | SA02 | (13.0) | － | － | 外：横方向のナデ　口縁下ヘラ状工具の波状文<br>内：ナデ　口唇内壁部分的に面取り | 焼成堅ち<br>胎土やや赤み | 1mm大以下の鉱物を少量含む |
| | 40 | 壷 | 924 2136 2171<br>2207 2309 2310<br>2314 | 5－C | SA02 | － | － | － | 外：縦方向のハケメ<br>内：ナデ | 底部尖底に近い平底<br>焼成堅ち | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 41 | 壷 | 2247 2312 | 5－C | SA02 | － | 3.0 | － | 外：胴部下縦方向ハケメ | 底部尖底に近い平底<br>焼成堅緻 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 42 | 高杯 | 2226 | 5－C | SA02 | － | 脚部径<br>(17.0) | － | 外：ミガキ　脚柱部は縦方向のミガキ<br>内：脚部ハケメのち裾部は横方向のミガキ | 4ヶの透孔　焼成堅緻 | 1mm大以下の鉱物、雲母を含む |
| | 43 | 鉢 | 2049 2298 2300<br>2319 2331 2332<br>2333 2343 | 5－C | SA02 | － | － | － | 外：口縁横方向のナデ　胴上部ナデ　胴下部ハケメ　口縁下屈曲部工具による右上がりのカキメ<br>内：ナデ | 底部脚台状の平底<br>口縁内部ススの付着 | 5mm大以下の鉱物を含む |
| | 44 | 器台 | 1522 | 5－C | SA02 | 21.8 | － | － | 外：ミガキ<br>内：ハケメ、ミガキ | 口唇部断面は中央がやや窪む、受部と柱部で緩慢に屈曲 | 2mm大以下の鉱物を含む |

| 挿図 | 番号 | 器種 | 取上げ番号 | グリッド | 出土遺構層位 | 法量(cm)（反転復元） | | | 調整 | 備考 | 胎土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 第12図 | 45 | 高杯 | 2336 | 5－b | SA02 | － | 脚部径 13.1 | － | 外：ミガキ<br>内：ハケメのちナデ | 器壁薄い　黒斑あり | 1㎜大以下の鉱物少量を含む |
| 第13図 | 46 | 壷 | 2296 | 5－C | SA02 | － | － | － | 外：底部を削り出している | 黒斑あり 焼成堅ち | 1㎜大以下の鉱物少量を含む |
| | 47 | 浅鉢 | 2317 | 5－C | SA02 | 18.0 | 7.2 | 7.9 | 外・内：ナデ　底部外面しぼり痕 | 底部脚台状の平底 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 48 | 蓋 | 1489 | 5－C | SA02 | － | 6.2 | － | 外・内：ナデ | 内器面スス付着 | 3㎜大以下の鉱物を含む |
| | 49 | 甕 | 2335 | 5－b | SA02 | － | 5.1 | － | 外：ナデ<br>内：ハケメのちナデ | 底部平底 | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 50 | 甕 | 2009 2033 1888 | 5－b<br>5－C | SA02 | － | 6.4 | － | 外：縦方向のハケメのちなで<br>内：ナデ | 底部平底 | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 51 | ミニチュア | 2261 | 5－C | SA02 | 5.2 | 1.3 | 6.2 | | 平底 | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 52 | ミニチュア | 2341 | 5－C | SA02 | 8.6 | 3.3 | 6.4 | | 平底 | 3㎜大以下の鉱物を含む |
| | 53 | ミニチュア | 2321～2325 | 5－C | SA02 | 10.4 | － | 6.0 | | 尖底 | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 54 | ミニチュア | 2074 | 5－C | SA02 | 9.0 | 4.6 | 6.1 | | 平底 | 3㎜大以下の鉱物を含む |
| | 55 | ミニチュア | | 5－C | SA02 | 4.5 | 0.8 | 2.3 | | 尖底 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 56 | ミニチュア | 2169 2249 | 5－C | SA02 | 4.3 | － | 3 | | 尖底 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 57 | ミニチュア | | 5－C | SA02 | － | 1.0 | 1.9～ | | 尖底 | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 58 | ミニチュア | 2168 | 5－C | SA02 | 3.5 | － | 1.8 | | 尖底 | 微小の鉱物を含む |
| 第18図 | 76 | 甕 | 1810 | 7－C | SA03 | － | － | － | 外：右下がりのタタキ<br>内：ナデ | | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 77 | 甕 | 1956 | 7－C | SA03 | － | － | － | 外：右下がりのタタキ<br>内：ナデ | | 3㎜大以下の鉱物を含む |
| | 78 | 壷 | 2203 | 7－C | SA03 | 10.0 | 丸底 | 22.1 | 外：肩部～口縁ナデ　胴部縦方向のハケメ　胴下部ミガキ | 丸底　胴中央に黒斑　胴下部にススが廻る | 3㎜大以下の鉱物を多量に含む |
| | 79 | 壷 | 2204 | 7－C | SA03 | 10.0 | 丸底 | 20.6 | 外：肩部～口縁ナデ　胴部縦方向のハケメ | 丸底 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 80 | 壷 | 2181 2182 2345 | 7－C | SA03 | － | 4.8 | － | 外：ハケメのちナデ<br>内：ハケメのちナデ | 平坦面を若干残す尖底に近い平底 | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 81 | 蓋 | 1620 | 7－C | SA03 | 5.5 | － | － | 外・内：ナデ | | 7㎜大以下の鉱物を多量に含む |
| | 82 | 甕 | 2186 | 7－C | SA03 | － | 6.0 | － | 外・内：ナデ | 底部上げ底状 | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 83 | ミニチュア | 2194 2196 2197 2214 | 7－C | SA03 | 9.7 | 1.9 | 7.7 | | 平底 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 84 | ミニチュア | 1999 | 7－C | SA03 | 6.4 | － | 2.8 | | 丸底 | 3㎜大以下の鉱物を含む |
| | 85 | ミニチュア | 1799 | 7－C | SA03 | 3.9 | 1.3 | 3.4 | | 平底 | 3㎜大以下の鉱物を含む |
| 第22図 | 95 | 甕 | 2245 2376 2381 2385 2400 2402 2404 2414 2434 | 7－f | SA04 | 23.0 | 5.0 | 22.3 | 外：ナデ<br>内：口縁ナデ　胴上部ハケメ | 底部上げ底状　口縁～胴部までスス付着 | 5㎜大以下の鉱物を含む |
| | 96 | 甕 | 2098 2150 2152 2244 2393 2394 2399 | 7－f | SA04 | 39.0 | － | － | 外：ナデ<br>内：横方向のハケメ | 口縁屈曲部に刻目（絡縄）突帯　胴中央スス付着 | 5㎜大以下の鉱物を割りと多く含む |
| | 97 | 甕 | 2232 2356 2362 | 7－f | SA04 | 25.0 | － | － | 外・内：ナデ | | 3㎜大以下の鉱物を含む |
| | 98 | 甕 | 2368 | 7－f | SA04 | 38.4 | － | － | 外：ナデ　内：口縁上部ナデ　屈曲部斜め・横方向のハケメ | 口縁屈曲部に刻目（絡縄）突帯 | 5㎜大以下の鉱物を割りと多く含む |
| | 99 | 甕 | 2163 | 7－f | SA04 | － | － | － | 外：屈曲部上斜めのハケメ　同下ハケメのち右上がりのタタキ　内：ハケメ | | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 100 | 甕 | 2099 | 7－f | SA04 | － | 6.8 | － | 外・内：風化大　同下部右下がりのタタキ | 底部上げ底気味 | 4㎜大以下の鉱物を割りと多く含む |
| | 101 | 壷 | 2079 2080 2081 2242 2372 2379 2395 2396 2405 2429 2431 2434 2435 | 7－f | SA04 | － | 6.4 | － | 外：ハケメ<br>内：ハケメのちナデ | 同中央直下に張り付けの刻目突帯文を1条<br>底部は脚台状の平底で上げ底気味 | 7㎜大以下の鉱物を多量に含む |
| | 102 | 壷 | 2158 | 7－f | SA04 | － | － | － | 外・内：ミガキ | 屈曲部直上横位の2条沈線に重弧文 | 器壁薄く焼成良好 |
| 第23図 | 103 | 壷 | 2230 2365 2398 2412 | 7－f | SA04 | 8.3 | － | － | 外・内：口縁部ヨコナデ | | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 104 | 壷 | 2083 2084 2085 2092 2097 | 7－f | SA04 | 15.0 | 3.0 | 12.6 | 外・内：ナデ | 成形が荒い　底部は台状が潰れた平底 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 105 | 壷 | 2364 | 7－f | SA04 | 14.6 | － | － | 外・内：ナデ | 内器面にススの付着 | 6㎜大以下の鉱物を含む |
| | 106 | 壷 | 2235 2239 2282 2387 2389 2420 2422～2428 2442 | 7－f | SA04 | | 4.2 | － | 外：胴上部ミガキ　胴下部横方向のハケメ<br>内：ハケメ | | 微小の鉱物を含む |
| | 107 | 壷 | 2078 | 7－f | SA04 | － | 2.3 | － | 外：縦方向のハケメ<br>内：ナデ | | 3㎜大以下の鉱物を含む |
| | 108 | 蓋 | 2382 | 7－f | SA04 | 7.2 | 27.0 | 10.3 | 外・内：ナデ | 内器面スス付着 | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 109 | 甕 | 2088 2091 | 7－f | SA04 | － | 5.2 | － | 外・内：ナデ | | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 110 | 高杯 | 2390 | 7－f | SA04 | － | － | － | 外：ハケメのちミガキ<br>内：ナデ | 透かし孔3ヶ所 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 111 | 器台 | 2373 2374 2406 2415 2416 2436 2438 2439 2442 | 7－f | SA04 | 20.0 | － | － | 外：ミガキ | 透かし孔1ヶ所確認 | 4㎜大以下の鉱物を含む |
| | 112 | 器台 | 2360 | 7－f | SA04 | － | 18.0 | － | 外・内：風化している<br>柱部はミガキ　裾はナデ | 透かし孔2ヶ所確認 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 113 | ミニチュア | 2095 | 7－f | SA04 | 4.4 | － | 2.5 | | 平底気味 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| 第25図 | 117 | ミニチュア | 1975 | 4－C | | 4.6 | － | 3.0 | | 平底気味 | 2㎜大以下の鉱物を含む |
| | 118 | ミニチュア | 1976 | 4－C | | 6.1 | － | 4.5 | | 丸底 | 微小の鉱物を含む |

| 挿図 | 番号 | 器種 | 取上げ番号 | グリッド | 出土遺構層位 | 法量(cm)（反転復元） | | | 調整 | 備考 | 胎土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 第27図 | 119 | 深鉢 | 4 | 1－C | | － | － | － | 外・内：横方向のミガキ | 口縁立上がりに２条の沈線 | 微小の鉱物を含む |
| | 120 | 深鉢 | | 1－b | | － | － | － | 外･内：ミガキ | 口縁立上がりに２条の沈線 | 微小の鉱物を含む |
| | 121 | 深鉢 | | 1－b | | － | － | － | 外・内：ミガキ | 口縁立上がりに２条の沈線 | 微小の鉱物を含む |
| | 122 | ミニチュア | 236 | 2－b | | (6.6) | 2.3 | 8.0 | | 平底 | 微小の鉱物を含む |
| | 123 | ミニチュア | 174 | 2－b | | 5.9 | 1.1 | 3.9 | 外：指頭痕 | 平底気味 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 124 | ミニチュア | 2455 | 1－a | | 5.3 | － | 4.2 | 外：指頭痕 | 尖り底気味 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 125 | ミニチュア | 407 | 3－b | | 5.3 | － | 3.5 | 外：指頭痕 | 尖り底気味 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 126 | ミニチュア | 240 | | | － | 1.8 | 3.4 | 外：指頭痕 | 平底 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 127 | ミニチュア | 2455 b | 1－a | | 5.2 | － | 3.3 | 外：指頭痕 | 尖り底気味 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 128 | ミニチュア | 288 | 2－b | | － | － | － | 風化大 | 尖り底気味 | ５mm以下の鉱物を多量に含む |
| | 129 | ミニチュア | 2360 | 7－C | | － | － | － | 外：縦方向のミガキ<br>内：ミガキ | 穿孔あり　焼成良好 | 微小の鉱物を含む |
| | 130 | ミニチュア | 1426 | 8－b | | 5.0 | － | 2.6 | | 丸底気味 | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 131 | ミニチュア | 302 | 2－C | | 5.2 | － | 2.5 | 外：指頭痕 | 丸底 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 132 | ミニチュア | 511 | 4－a | | 4.0 | － | 3.0 | 外：指頭痕 | 平底 | 微小の鉱物を含む |
| | 133 | ミニチュア | 1045 | 1－a | | 5.0 | － | 3.2 | 外：指頭痕 | 尖り底 | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 134 | ミニチュア | 112 | 1－a | | 4.6 | － | 2.4 | 外：指頭痕 | 平底気味 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 135 | ミニチュア | 843 | 4－b | | 5.2 | － | 2.5 | | 尖り底気味 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 136 | ミニチュア | | | | 4.1 | － | 3.2 | | 平底 | 微小の鉱物を含む |
| | 137 | ミニチュア | 685 | 5－C | | 4.3 | 2.8 | 3.1 | | 平底 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 138 | ミニチュア | 227 | 2－b | | － | 2.3 | － | | 平底 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 139 | ミニチュア | 1193 | 6－C | | 4.2 | － | 2.9 | | 尖り底気味 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 140 | ミニチュア | | 3－C | | 3.6 | － | 2.7 | | 尖り底気味 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 141 | ミニチュア | 1063 | 3－C | | 3.5 | － | 1.8 | | 尖り底気味 | 3mm大以下の鉱物を含む |
| | 142 | ミニチュア | 1179 | 6－C | | 3.7 | － | 2.0 | | 尖り底気味 | 6mm大以下の鉱物を含む |
| 第28図 | 143 | 壷 | 2456 | 1－a | | － | － | － | 外：胴部縦方向のハケメ<br>内：横方向のハケメ | 色調はやや赤い | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 144 | 壷 | 1138 | 4－b | | 11.5 | 4.3 | 11.5 | 外･内：ナデ | 底部は台状の平底 | 2mm大以下の鉱物を含む |
| | 145 | 壷 or 鉢 | 73 | 1－b | | － | － | － | 外：ハケメのちなで？<br>内：ナデ | | 微小の鉱物を含む |
| | 146 | 有孔鉢 | 2457 | 1－a | | 4.4 | － | － | 外：タタキのちナデ？ | 穿孔径 2.8cm | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 147 | 高杯 | 2452 | 2－C | | － | － | 12.6 | 風化大 | 透かし孔１ヶ所確認 | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 148 | 高杯 | 2451 2453 | 2－C | | － | － | 22.4 | 外：丁寧なナデ（ミガキ）<br>内：丁寧なナデ（ミガキ） | 焼成良好 | 微小の鉱物を含む |
| | 149 | 杓子形土器 | 1246 | 8－b | | － | － | － | 手づくね | | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 150 | 杓子形土器 | 384 | 3－a | | － | － | － | 手づくね | | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 151 | 甕 | 1033 | 1－C | | － | － | (4.9) | | 底部上げ底状 | ５mm以下の鉱物を含む |
| | 152 | 甕 | 1095 | 4－C | | － | － | 6.6 | | 底部上げ底状 | 4mm大以下の鉱物を含む |
| | 153 | 甕 | 129 | 1－a | | － | － | 6.2 | 外･内：ナデ | 平底 | 1mm大以下の鉱物を含む |
| | 154 | 甕 | 296 | 1－C | | － | － | 5.6 | | 底部上げ底状 | ５mm以下の鉱物を多量に含む |
| | 155 | 甕 | 50 | 2－C | | － | － | 4.5 | | 底部上げ底状 | ５mm以下の鉱物を多量に含む |
| | 156 | 甕 | 367 | 3－a | | － | － | (6.1) | 外･内：ナデ | 底部上げ底状 | 3mm以下の鉱物を多量に含む |
| | 157 | 甕 | 1077 | 3－C | | － | － | 4.8 | 外：丁寧なナデ | 底部上げ底状 | ５mm以下の鉱物を含む |
| | 158 | 甕 | 581 | 4－b | | － | － | 3.4 | 外･内：ナデ | | 微小の鉱物を含む |
| | 159 | 甕 | 434 | 3－C | | － | － | 4.1 | 外：しぼり痕 | 脚台状 | ５mm以下の鉱物を含む |
| | 160 | 甕 | | 3－C | | － | － | 3.6 | 外･内：ナデ | 平底 | ３mm以下の鉱物を含む |
| | 161 | 壷 | 26 | 1－C | | － | － | 8.2 | 外･内：ナデ | 平底 | ５mm以下の鉱物を多量に含む |
| | 162 | 蓋 | 1203 | 5－b | | － | － | 3.7 | 外･内：ナデ | | ２mm以下の鉱物を含む |

出土遺物観察表④

| | 番号 | 器種 | グリッド | 出土遺構 | 法量(cm・g) | | | | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 取上げ番号 | 層位 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | | |
| 第9図 | 25 | 砥石 | 3－a 1855 | SA01 | 12.1 | 5.1 | 0.7 | 76.3 | 頁岩 | |
| | 26 | 敲石 | 3－a 2443 | SA01 | 11.8 | 6.9 | 4.85 | 440 | 砂岩 | |
| | 27 | 敲石 | 3－a 2449 | SA01 | 14.7 | 7.4 | 5.4 | 630 | 砂岩 | ススの付着 |
| 第13図 | 59 | 石包丁 | 5－C 2303 | SA02 | 8.85 | 3.3 | 0.55 | 28.3 | シルト質頁岩 | 直背直刀・片刃 |
| | 60 | 石包丁 | 5－C 2329 | SA02 | 7.5 | 4.55 | 0.9 | 46.1 | 砂岩 | 方形・抉り入り |
| | 61 | 敲石 | 5－C 2287 | SA02 | 9.55 | 3.15 | 2.35 | 108 | 砂岩 | |
| | 62 | 磨石 | 5－C 2328 | SA02 | 5.0 | 3.3 | 3.1 | 62.9 | 砂岩 | |
| | 63 | 磨石 | 5－C 1795 | SA02 | 3.1 | 2.6 | 2.25 | 22.7 | 砂岩 | |
| | 64 | 磨石 | 5－C 1949 | SA02 | 1.8 | 1.7 | 1.45 | 5.5 | 砂岩 | |
| | 65 | 敲・磨石 | 5－C 2316 | SA02 | 13.4 | 9.4 | 4.9 | 950 | 砂岩 | スス付着 |
| | 66 | 石核 | 5－C 2286 | SA02 | 8.65 | 14.0 | 6.45 | 1160 | 黒色頁岩 | |
| 第14図 | 67 | 敲石 | 5－C 2337 | SA02 | 21.45 | 8.7 | 9.35 | 2085 | 砂岩 | |
| | 68 | 敲・磨石 | 5－C | SA02 | 10.3 | 9.85 | 4.95 | 720 | 砂岩 | |
| | 69 | 敲石 | 5－C 2262 | SA02 | 19.3 | 10.35 | 5.95 | 1640 | 砂岩 | スス付着 |
| | 70 | 敲・磨石 | 5－C 2318 | SA02 | 21.1 | 11.1 | 5.15 | 1630 | 砂岩 | スス付着 |
| | 71 | 敲石 | 5－b 2338 | SA02 | 17.2 | 8.7 | 5.35 | 1070 | 砂岩 | スス付着 |
| 第15図 | 72 | 敲・磨石 | 5－b 2330 | SA02 | 21.6 | 8.2 | 7.4 | 1950 | 砂岩 | スス付着 |
| | 73 | 敲石 | 5－b 2331 | SA02 | 20.05 | 8.55 | 7.65 | 1650 | 砂岩 | スス付着 |
| | 74 | 石皿 | 5－C 2302 | SA02 | 29.1 | 12.55 | 4.15 | 2225 | 砂岩 | |
| | 75 | 石皿 | 5－C 2285 | SA02 | 26.8 | 25.1 | 9.95 | 8900 | 砂岩 | |
| 第19図 | 86 | 敲石 | 7－C 2189 | SA03 | 9.9 | 7.6 | 3.5 | 350 | 砂岩 | |
| | 87 | 敲石 | 7－C 2186 | SA03 | 18.4 | 8.55 | 7.1 | 1690 | 砂岩 | |
| | 88 | 敲石 | 7－C 2201 | SA03 | 18.7 | 8.2 | 9.35 | 1865 | 砂岩 | スス付着 |
| | 89 | 敲石 | 7－C 2187 | SA03 | 17.4 | 10.45 | 6.45 | 1450 | 砂岩 | |
| | 90 | 敲・磨石 | 7－C 1849 | SA03 | 15.15 | 9.25 | 8.5 | 1.350 | 砂岩 | |
| | 91 | 敲石 | 7－C 2213 | SA03 | 6.45 | 4.25 | 3.2 | 108.1 | 砂岩 | |
| | 92 | 敲石 | 7－C 2192 | SA03 | 5.0 | 3.9 | 2.1 | 47.1 | 砂岩 | |
| 第20図 | 93 | 石皿 | 7－C 2188 | SA03 | 27.8 | 18.8 | 5.1 | 4300 | 砂岩 | ススの付着 |
| | 94 | 石皿 | 7－C 2202 | SA03 | 28.5 | 21.6 | 8.6 | 7600 | 砂岩 | ススの付着 |
| 第24図 | 114 | 石包丁 | 7－f | SA04 | (3.9) | 3.75 | 0.6 | (14.1) | 頁岩 | |
| | 115 | 敲石 | 7－f 2384 | SA04 | 12.8 | 7.9 | 5.8 | 470 | 砂岩 | |
| | 116 | 敲・磨石 | 7－f 2380 | SA04 | 12.5 | 8.8 | 7.7 | 1030 | 砂岩 | スス付着 |
| 第29図 | 163 | 石鏃 | 7－b 1567 | 3層 | 3.4 | 2.2 | 0.4 | 3 | 無斑晶安山岩 | |
| | 164 | 石鏃 | 3－b | 3b層 | 1.25 | 1.2 | 0.35 | 0.3 | 安山岩 | |
| | 165 | 石包丁 | 4－b 464 | 2層 | 7.55 | 3.05 | 0.4 | 20.3 | 頁岩 | |
| | 166 | 砥石 | 4－b 636 | | 5.4 | 3.4 | 0.8 | 21.2 | 頁岩 | |
| | 167 | 横長剥片 | 4－C 1104 | | 14.0 | 7.5 | 1.6 | 220 | 珪質頁岩 | |
| | 168 | 石包丁 | 2－a 258 | | 13.3 | 5.1 | 1.1 | 102.6 | 頁岩 | |
| | 169 | 敲石 | 3－b 411 | 2層 | 6.25 | 4.3 | 2.2 | 79.8 | 砂岩 | |
| | 170 | 磨石 | 3－b 481 | | 5.1 | 3.95 | 1.7 | 48.7 | 砂岩 | |

（4）自然科学分析

## Ⅰ．向原第２遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析

### １．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（$SiO_2$）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

### ２．試料

分析試料は、調査区北壁の土層断面から採取された７点およびSA03住居跡から採取された２点の計９点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

### ３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
２）試料約１gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）
３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
５）沈底法による20μm以下の微粒子除去
６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
７）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：$10^{-5}$ g）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

### ４．分析結果

（１）分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１および図１に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、ジュズダマ属、シバ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族Ａ（チ

ガヤ属など)、ウシクサ族Ｂ（大型）
〔イネ科－タケ亜科〕
　メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など)、マダケ属型（マダケ属、ホウライチク属)、未分類等
〔イネ科－その他〕
　表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等
〔樹木〕
　ブナ科（シイ属)、マンサク科（イスノキ属)、その他

（２）植物珪酸体の検出状況
１）調査区北壁
　下位の４層（試料７）では、植物珪酸体がほとんど検出されなかった。３ｂ層（試料５、６）では、ネザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族Ａ、メダケ節型、ミヤコザサ節型なども認められた。３ａ層（試料２～４）では、ススキ属型、ネザサ節型が増加し、イネが出現している。イネの密度は 700 ～ 2,000 個 /g と比較的低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている 3,000 個 /g を下回っている。１ｂ層（試料１）では、イネ、ネザサ節型が増加し、シバ属、マダケ属型、マンサク科（イスノキ属）などが出現している。イネの密度は 7,100 個 /g と高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、３ｂ層ではヨシ属、３ａ層より上位ではススキ属型、ネザサ節型が優勢であり、１ｂ層ではイネも多くなっている。

２）竪穴住居３
　中央部の植物痕跡（試料１）では、棒状珪酸体が 10 万個 /g 以上と極めて多量に検出され、ススキ属型、ネザサ節型も比較的多く検出された。また、イネ、キビ族型、ヨシ属、ジュズダマ属、ウシクサ族Ａ、メダケ節型、ブナ科（シイ属)、マンサク科（イスノキ属）なども認められた。ここで検出された棒状珪酸体は、おもにイネ科の茎部などに由来すると考えられるが、シダ類にも類似した形態のものがある。イネの密度は 1,900 個 /g と比較的低い値である。住居跡の床面（試料２：比較試料）では、棒状珪酸体を除いて試料１とほぼ同様の結果である。おもな分類群の推定生産量によると、各試料ともヨシ属、ススキ属型、ネザサ節型が優勢となっている。

５．考察
（１）調査区北壁
　３ｂ層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような比較的湿潤な環境であり、周辺の比較的乾燥したところにはススキ属やチガヤ属、およびメダケ属（おもにネザサ節）などの竹笹類が生育していたと推定される。
　桜島文明軽石（1471 年）より下位の３ａ層の堆積当時は、ススキ属やメダケ属を主体とした草原的な環境であったと考えられ、周辺にはヨシ属が生育するような比較的湿潤なところも分布していたと推定される。また、当時は周辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

１ｂ層の時期は、調査地点で稲作が行われていたと考えられ、周辺にはススキ属、シバ属、メダケ属、マダケ属などが分布していたと推定される。マダケ属にはマダケやモウソウチクなど有用なものが多く、建築材や生活用具、食用などとしての利用価値が高い。

（２）竪穴住居３

中央部の植物痕跡では、棒状珪酸体が極めて多量に検出され、イネ科植物の茎部もしくはシダ類などが燃料などとして利用されていた可能性が認められた。当時は周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で住居跡にイネの植物珪酸体が混入したと考えられる。

文献

杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究．38（２），p.109 － 123.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189 － 213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（１）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，９，p.15 － 29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（５）－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73 － 85.

町田洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺－．東京大学出版会，336p.

## 表１　向原第2遺跡(第3次調査)における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

| 分類群 | 地点・試料<br>学名 | 調査区北壁<br>1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | SA03<br>1 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イネ科 | Gramineae | | | | | | | | | |
| イネ | Oryza sativa | 71 | 20 | 7 | 7 | | | | 19 | 13 |
| キビ族型 | Paniceae type | 7 | 20 | 21 | 7 | 7 | | | 7 | 7 |
| ヨシ属 | Phragmites | 7 | 13 | 35 | 15 | 14 | 21 | | 19 | 20 |
| ジュズダマ属 | Coix | | | | | | | | 7 | 7 |
| シバ属 | Zoysia | 79 | | | | | | | | |
| ススキ属型 | Miscanthus type | 107 | 85 | 200 | 88 | 43 | 7 | | 78 | 79 |
| ウシクサ族A | Andropogoneae A type | 29 | 26 | 21 | 29 | 36 | 14 | | 26 | 33 |
| ウシクサ族B | Andropogoneae B type | | | | | 7 | 7 | | 7 | 7 |
| タケ亜科 | Bambusoideae | | | | | | | | | |
| メダケ節型 | Pleioblastus sect. Nipponocalamus | 93 | 85 | 62 | 51 | 43 | 14 | | 32 | 40 |
| ネザサ節型 | Pleioblastus sect. Nezasa | 378 | 254 | 152 | 88 | 115 | 28 | | 97 | 119 |
| チマキザサ節型 | Sasa sect. Sasa etc. | | | | | 29 | 7 | | 7 | 13 |
| ミヤコザサ節型 | Sasa sect. Crassinodi | | 13 | 7 | 15 | 50 | 14 | | 7 | 13 |
| マダケ属型 | Phyllostachys | 14 | | | | | | | | |
| 未分類等 | Others | 21 | 26 | 28 | 66 | 65 | 21 | | 26 | 13 |
| その他のイネ科 | Others | | | | | | | | | |
| 表皮毛起源 | Husk hair origin | 14 | 7 | 7 | 15 | 7 | | | 13 | |
| 棒状珪酸体 | Rodshaped | 128 | 137 | 62 | 102 | 43 | 7 | | 1059 | 59 |
| 茎部起源 | Stem origin | | | | | | 7 | | | |
| 未分類等 | Others | 193 | 359 | 359 | 335 | 316 | 231 | 8 | 265 | 323 |
| 樹木起源 | Arboreal | | | | | | | | | |
| ブナ科(シイ属) | Castanopsis | | | | | | | | 7 | |
| マンサク科(イスノキ属) | Distylium | 7 | | | | | | | 7 | |
| その他 | Others | 21 | | | | | | | 7 | |
| 植物珪酸体総数 | Total | 1170 | 1043 | 959 | 817 | 775 | 378 | 8 | 1687 | 746 |

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡·cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イネ | Oryza sativa | 2.01 | 0.58 | 0.20 | 0.21 | | | | 0.57 | 0.39 |
| ヨシ属 | Phragmites | 0.45 | 0.82 | 2.18 | 0.92 | 0.91 | 1.32 | | 1.22 | 1.25 |
| ススキ属型 | Miscanthus type | 1.33 | 1.05 | 2.48 | 1.08 | 0.53 | 0.09 | | 0.96 | 0.98 |
| メダケ節型 | Pleioblastus sect. Nipponocalamus | 1.08 | 0.98 | 0.72 | 0.59 | 0.50 | 0.16 | | 0.37 | 0.46 |
| ネザサ節型 | Pleioblastus sect. Nezasa | 1.82 | 1.22 | 0.73 | 0.42 | 0.55 | 0.13 | | 0.46 | 0.57 |
| チマキザサ節型 | Sasa sect. Sasa etc. | | | | | 0.22 | 0.05 | | 0.05 | 0.01 |
| ミヤコザサ節型 | Sasa sect. Crassinodi | | 0.04 | 0.02 | 0.04 | 0.15 | 0.04 | | 0.02 | 0.04 |
| タケ亜科の比率（%） | | | | | | | | | | |
| メダケ節型 | Pleioblastus sect. Nipponocalamus | 37 | 44 | 49 | 56 | 35 | 42 | | 41 | 39 |
| ネザサ節型 | Pleioblastus sect. Nezasa | 63 | 54 | 50 | 40 | 39 | 34 | | 51 | 49 |
| チマキザサ節型 | Sasa sect. Sasa etc. | | | | | 15 | 13 | | 5 | 9 |
| ミヤコザサ節型 | Sasa sect. Crassinodi | | 2 | 1 | 4 | 11 | 11 | | 2 | 3 |

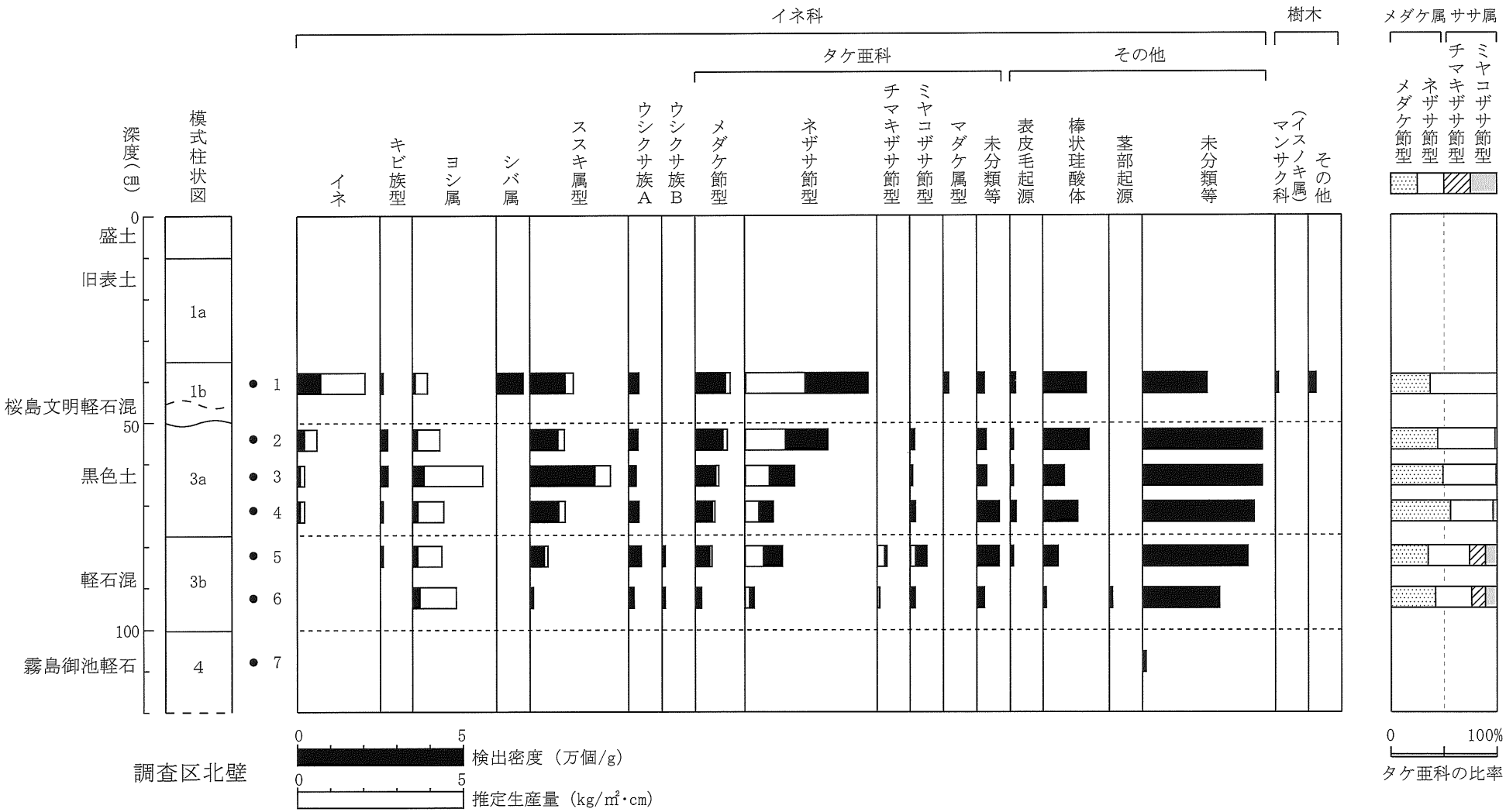
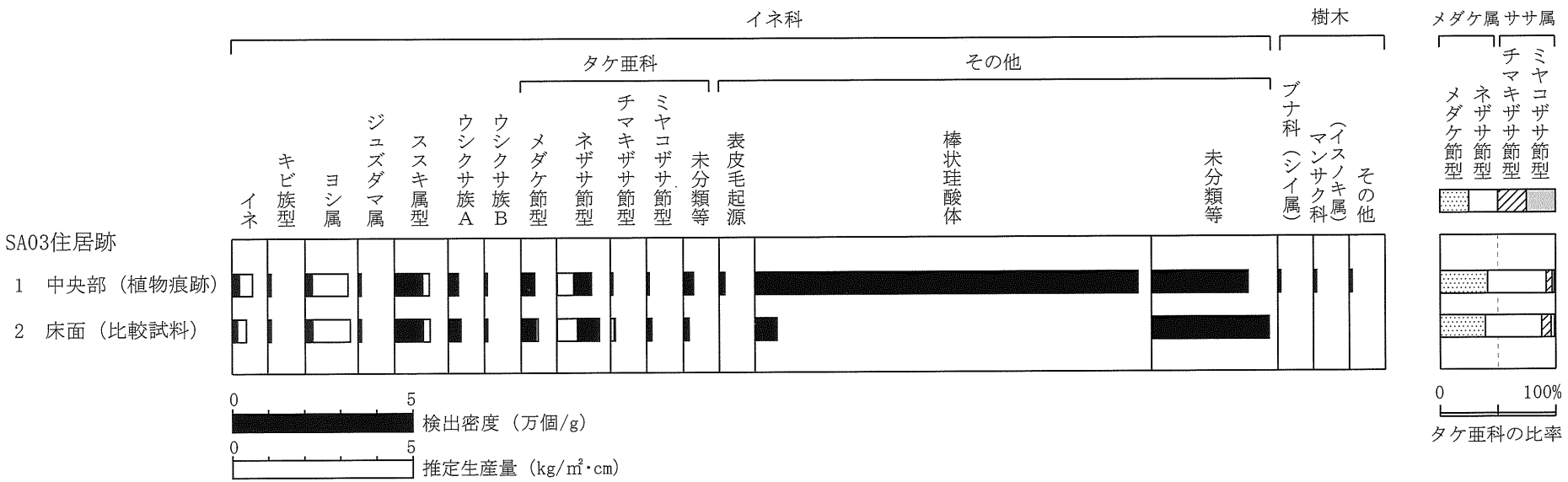
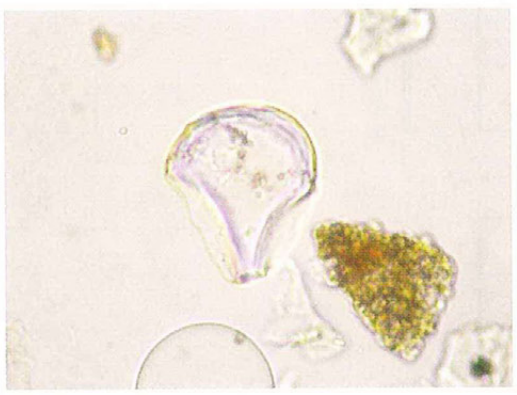
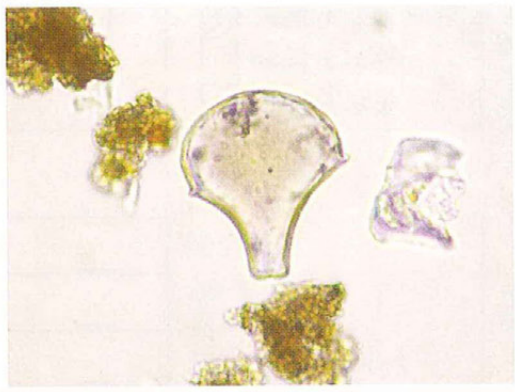



図１　向原第２遺跡における植物珪酸体分析結果

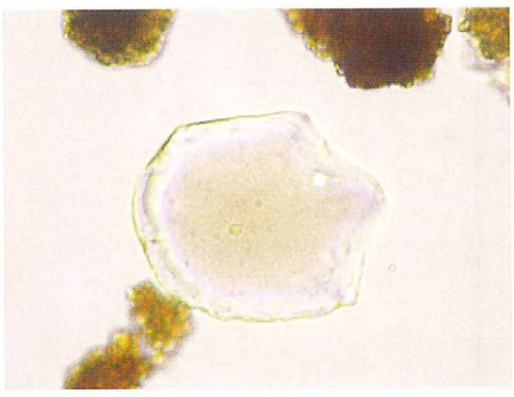

イネ科
樹木
タケ亜科
その他
メダケ属
ササ属
イネ
キビ族型
ヨシ属
ジュズダマ属
ススキ属型
ウシクサ族A
ウシクサ族B
メダケ節型
ネザサ節型
チマキザサ節型
ミヤコザサ節型
未分類等
表皮毛起源
棒状珪酸体
未分類等
ブナ科（シイ属）
（イスノキ属）
マンサク科
その他
メダケ節型
ネザサ節型
チマキザサ節型
ミヤコザサ節型
SA03住居跡
1　中央部（植物痕跡）
2　床面（比較試料）
0
5
検出密度（万個/g）
0
5
推定生産量（kg/m²・cm）
0
100%
タケ亜科の比率

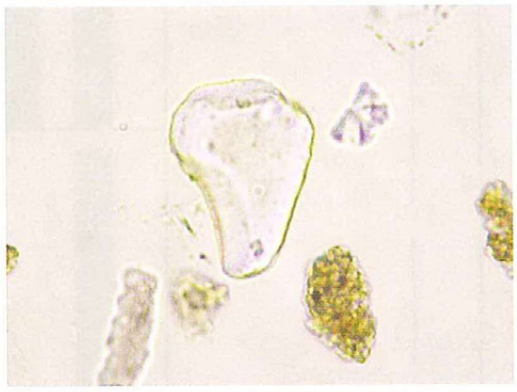
向原第２遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）

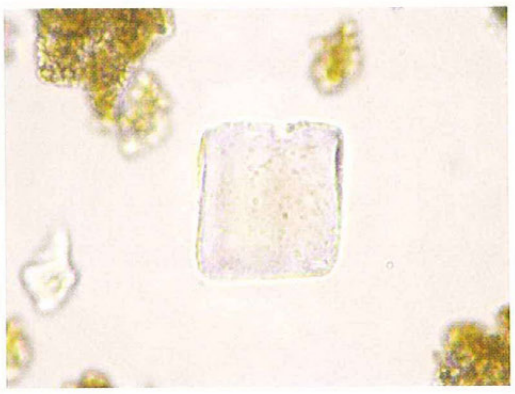

イネ

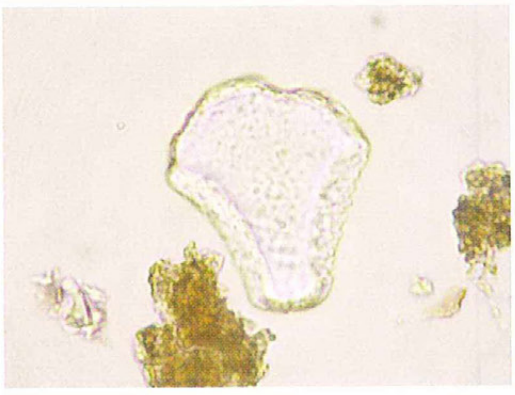

イネ

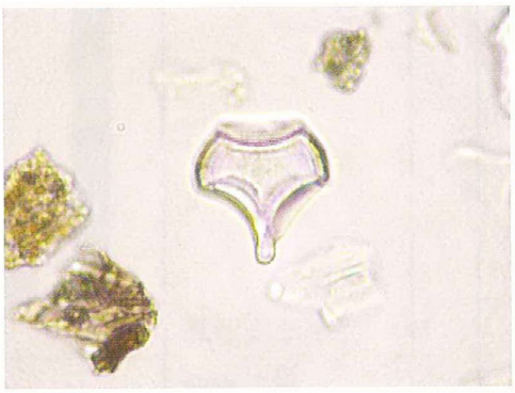
キビ族型


ヨシ属

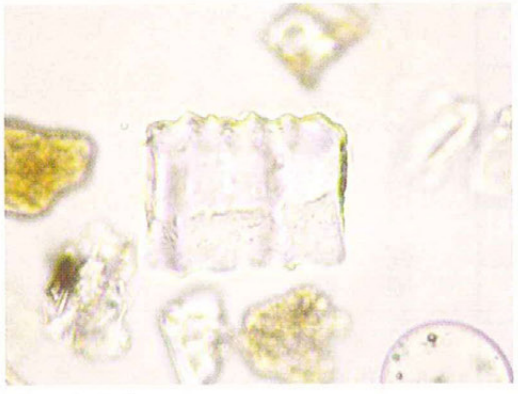

ススキ属型

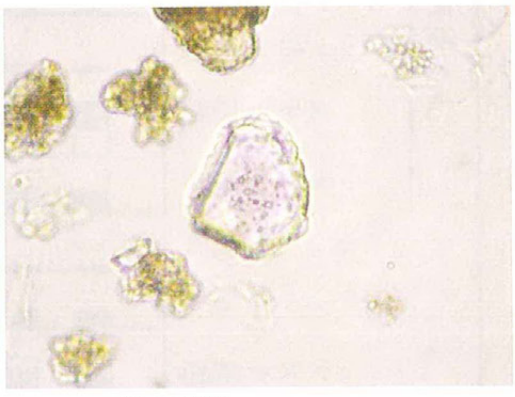

ウシクサ族Ａ

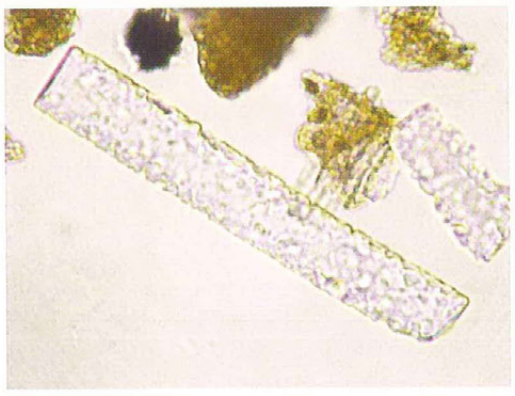

ウシクサ族Ｂ

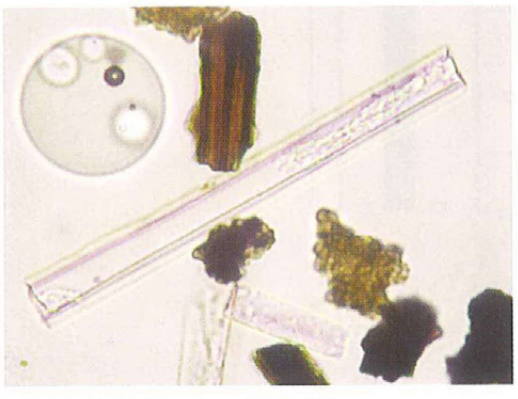

シバ属

メダケ節型


ネザサ節型


ミヤコザサ節型


棒状珪酸体


棒状珪酸体（シダ類？）

ブナ科（シイ属）

マンサク科（イスノキ属）

50μm

## Ⅱ．向原第２遺跡における放射性炭素年代測定

### １．はじめに

放射性炭素年代測定は、呼吸作用や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（14C）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。

### ２．試料と方法

| 試料名 | 地点・層準 | 種類 | 前処理 | 測定法 |
|---|---|---|---|---|
| №1 | 竪穴住居２，№2270 | 炭化材 | 超音波洗浄，酸－アルカリ－酸処理 | AMS |
| №2 | 竪穴住居３，№2207 | 炭化材 | 超音波洗浄，酸－アルカリ－酸処理 | AMS |

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

### ３．測定結果

表１に放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果を示し、図１に暦年較正結果（較正曲線）を示す。

（１）$\delta^{13}$C（デルタ）測定値

試料の測定$^{14}$C／$^{12}$C比を補正するための炭素安定同位体比（$^{13}$C／$^{12}$C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料の$\delta^{13}$C値を－25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正する。

（２）$^{14}$C年代測定値

試料の$^{14}$C／$^{12}$C比から、現在（AD1950年基点）から何年前かを計算した値。$^{14}$Cの半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を用いた。

（３）暦年代（Calendar Age）

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中$^{14}$C濃度の変動、および$^{14}$Cの半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な$^{14}$C測定値およびサンゴのU/Th（ウラン/トリウム）年代と$^{14}$C年代の比較により作成された較正曲線を使用した（較正曲線データはIntCal04，較正プログラムはOxCal3.1）。

暦年代は、$^{14}$C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で示し、OxCal3.1の確率法により１$\sigma$（シグマ）（68.2％確率）と２$\sigma$（95.4％確率）で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の1$\sigma$・２$\sigma$値が表記される場合もある。（ ）内の％表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は$^{14}$C年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

### ４．所見

加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定の結果、№1の炭化材では1855±25年BP（２$\sigma$の暦年代でAD80～240年）、№2の炭化材では1845±25年BP（AD80～240年）の年代値が得られた。これらの試料は、ほぼ同一時期のものと考えられる。

文献

Bronk Ramsey C. (1995)Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy,The OxCal Program,Radiocarbon,37(2), p.425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A), 355-363.

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal 04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46,p.1029-1058.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の 14C 年代 , p.3-20.

表１　放射性炭素年代測定結果

| 試料No. | 測定番号 PED- | $\delta^{13}C$ (‰) | $^{14}C$年代 (年BP) | 暦年代（較正年代） | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 σ（68.2%確率） | 2 σ（95.4%確率） |
| 1 | 10604 | -25.91 ± 0.16 | 1855 ± 25 | 125AD（68.2%）215AD | 80AD（95.4%）240AD |
| 2 | 10605 | -26.90 ± 0.16 | 1845 ± 25 | 125AD（68.2%）215AD | 80AD（95.4%）240AD |

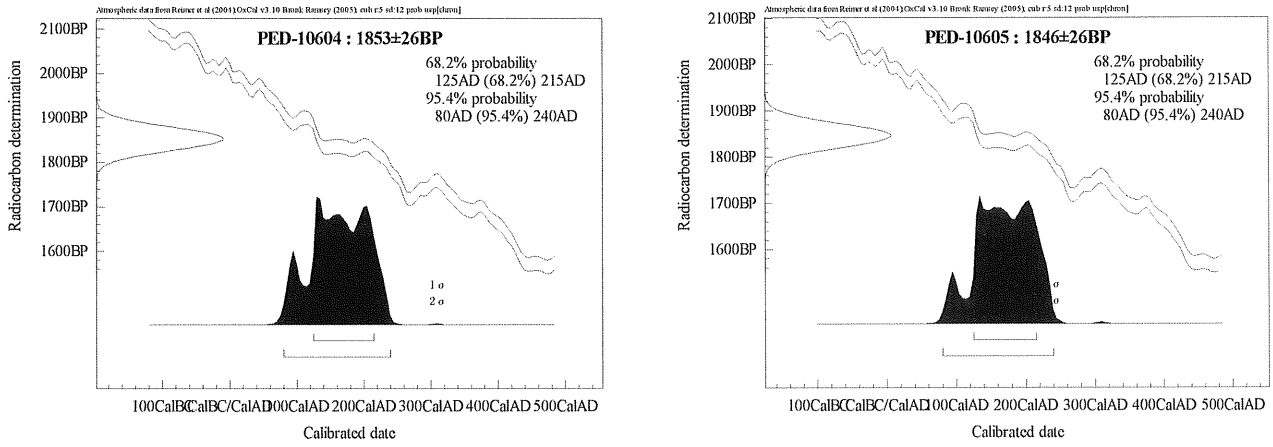



図１　暦年較正結果

## 4．小結

当該地は詳細分布調査では向原遺跡〔遺跡番号:(旧)4012,(新)M4012〕と表記され、平成元年の調査時に向原第１遺跡と向原第２遺跡に細分されている。向原第２遺跡は昭和63年、平成16年、19年に試掘調査、平成元年、17年、19年に本調査を実施している。第２図をみると東西方向の集落の広がりに加え、今回の試掘・本調査で南側の周回道路付近が集落の南端と確認できた。主体となる弥生時代の遺構は１次～３次全体で竪穴住居８軒（１次：４軒、２次：１軒、３次：３軒)、竪穴状遺構1基(３次のみ)、掘立柱建物跡３軒（１次のみ)、溝状遺構１条(1次のみ)などである。竪穴住居の平面形は推定を含め７軒が方形、残り1軒が円形と思われる。竪穴状遺構(SX01)は2.1ｍほどの小型の方形プランである。

個別にみると、SA01では甕はカキアゲ・カキメやタタキ調整のものがあり、胴部最大径が口縁径を凌ぐものが多く、底部も平底が主体と思われる。壷は口縁がラッパ状に開く小型のものや長頸壷が出土し、底部は平底である。高杯は脚部のみだが脚裾部がラッパ状に広がるタイプ(石川分類Ａ形式)。SA02では甕はカキメを伴い口縁径と胴部径がほぼ等しい。壷は二重口縁壷、長頸壷、直口壷などで、底部は小さい平底か尖り底である。鉢は脚台状平底から胴部は張らず頸部は鈍く屈曲し短く外反する。高杯は杯部を欠損しているが脚柱部から屈曲して椀状の裾部をもつ(石川分類Ｂ形式)。SA03は出土遺物が少ないがタタキ調整を残す甕、球形胴に短い口縁をもつ壷などである。SX01では甕は刻目突帯をもつものともたないものがあり、上げ底状でタタキを残すものもある。壷は胴中央に刻目突帯を廻らすもの、偏球形の胴部をもつ精製の直口壷(106)や小型丸底壷を意識した粗製の平底の小型壷（104)がある。重弧文長頸壷(102)は胴部が長く丸くなることで生じる屈曲部の鈍さから古墳時代初頭まで下がり、高杯脚部(110)はＢ１類と思われる。SA01は弥生後期後半から終末、SA02･03も同時期でSX01は小型丸底壷の影響が窺えることから前者よりやや下ると思われる。また、SA02,03の床面出土の炭化材について放射能炭素年代の測定を実施した。14C年代測定ではほぼ同値を示し、１σ(68.2％確率)でAD125～215、2σ値(95.4％確率)でAD80～240の時期幅が示されている。

集落の周辺環境については、稲作は北面に西流する年見川流域の沖積地面で、開析扇状地端部に集落は存在する。 集落面の植物珪酸体分析では３ｂ層堆積当時はヨシ属が繁茂する比較的湿潤な環境で、周辺の乾燥したところに竹笹類が生育したようである。3a層ではイネが出現しているがその密度は低く台地上で稲作が行われた基準を満たしていない。また、SA03の中央土坑内より10万個／ｇ以上の植物珪酸体が検出され、イネ科植物の茎部かシダ類などが燃料として使用した可能性を示している。

最後に特長のある土器について、穿孔のあるミニチュア土器(129)の類例として、祝吉遺跡２次の７号竪穴住居や大萩遺跡(1)の12号土壙墓から同様の土器が出土している。また、免田式重弧文土器は城ヶ尾遺跡Ａ地区で重弧文を施した器台、Ｂ地区竪穴住居跡２から長頸壷、今房遺跡周溝状遺構１からやや大型の長頸壷、大萩遺跡(1)の４・５号土壙墓から長頸壷が出土している。

＜参考文献＞

石川悦雄「弥生時代後期後半から古墳時代の土器編年にむけて－予察Ｉ高杯－」『宮崎研総合博物館研究紀要』15　1990

吉本正典「日向の庄内式併行期の土器」『考古学ジャーナル』363 ニューサイエンス社 1993

西健一郎「重弧文長頸壷」『弥生文化の研究』４　1987　雄山閣

松永幸寿「宮崎平野における弥生時代後期中葉～古墳時代中期の土器編年」『宮崎考古』17　宮崎考古学会 2001

桒畑光博「向原第１・２遺跡」『平成元年遺跡発掘調査報告』都城市文化財調査報告書第11集　都教委 1990

加覧淳一「向原第２遺跡－第２次調査－」都城市文化財調査報告書第75集　都教委　2006

ほか

写真図版１

▲平成元年調査遠景（西より）

▲平成17年調査遠景（東より）

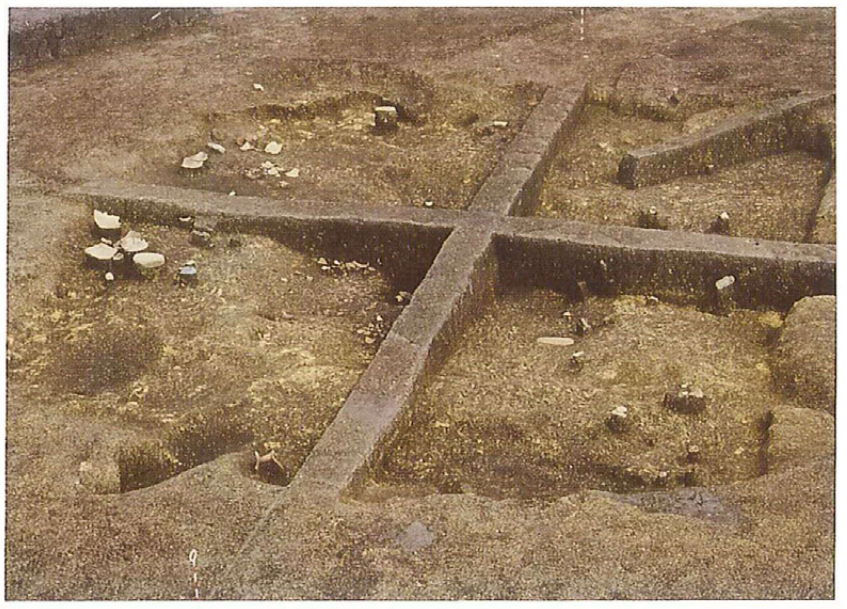
▲北側調査区域全景（西より）

▼SA01（東より）

▲SA01出土遺物検出状況（南より）

写真図版３

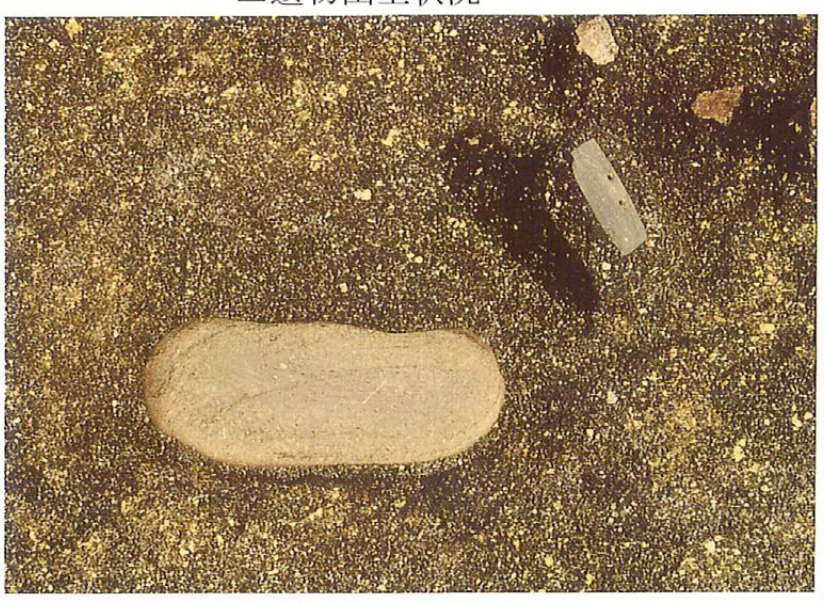
▲SA02検出状況



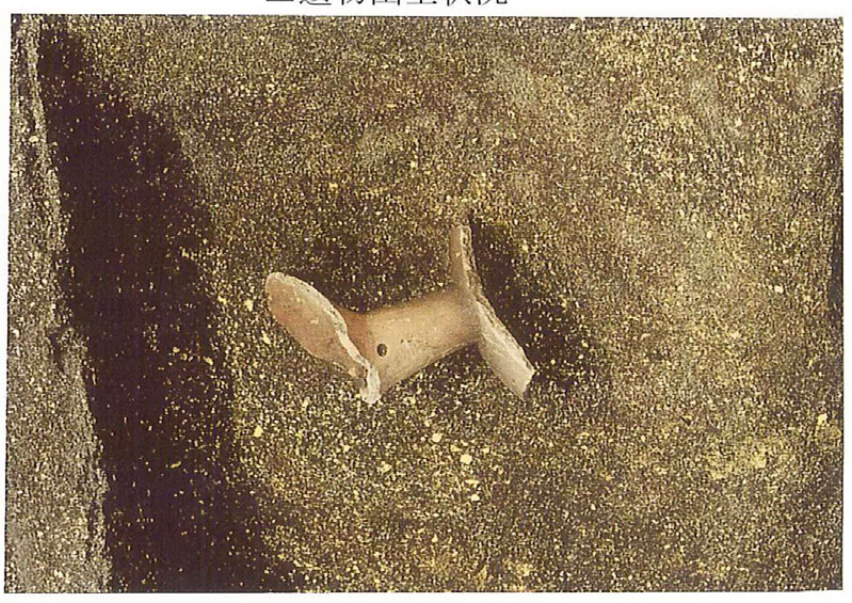
▲遺物出土状況

▲遺物出土状況

▲遺物出土状況



▲主な遺物出土状況



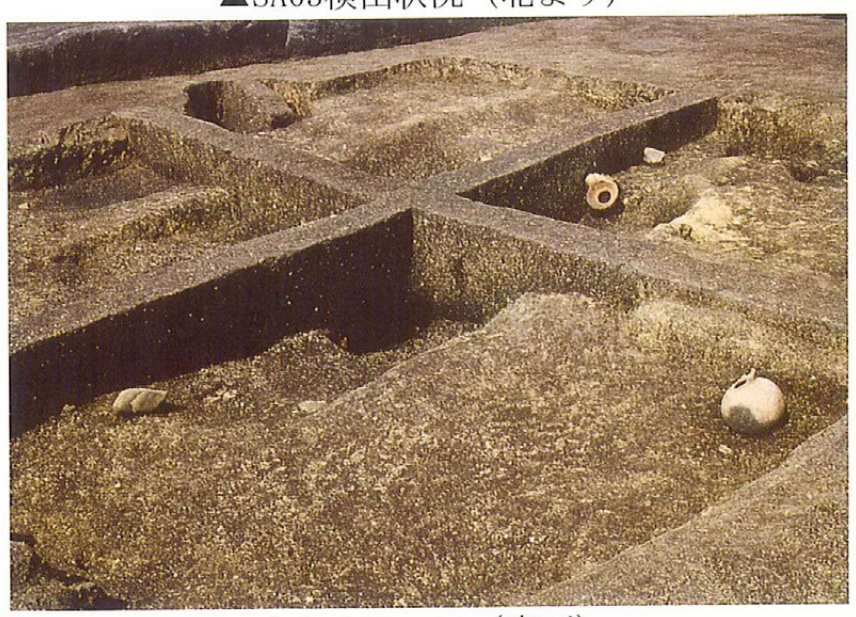
▲主な遺物出土状況

▲中央土坑

▲SA02完掘状況（南より）

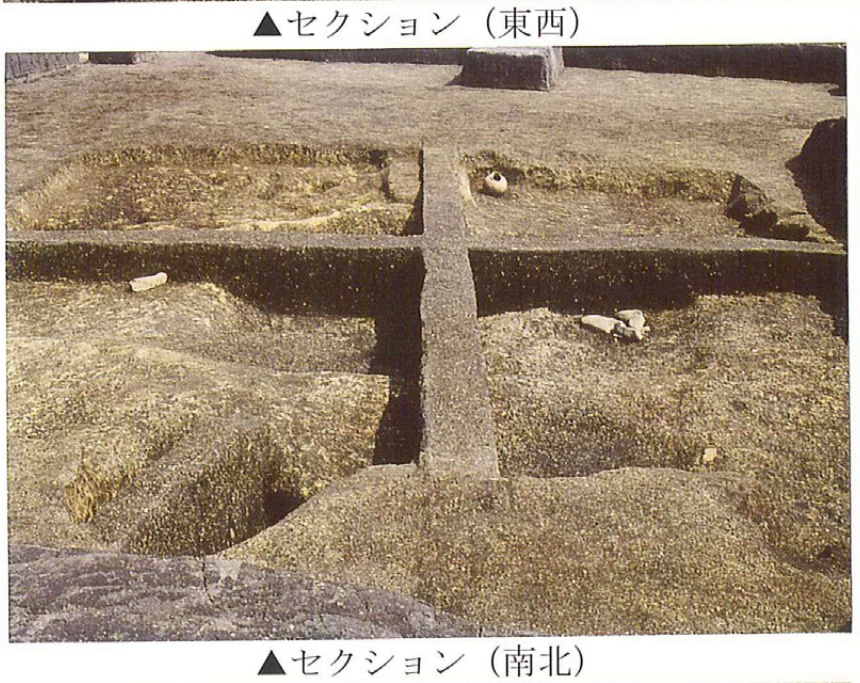
▲SA03検出状況（北より）

▲SA03検出状況（南より）

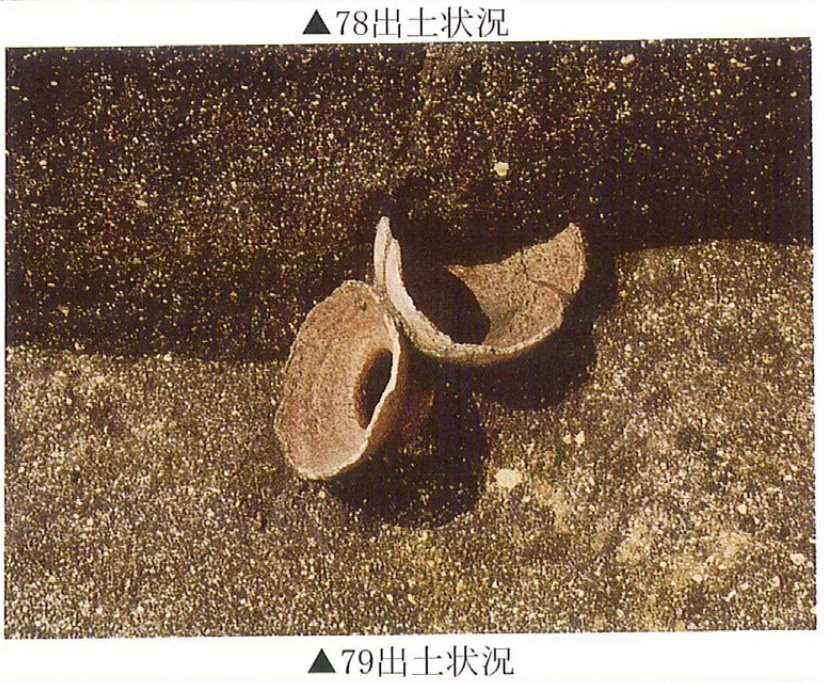


▲セクション（東西）

▲78出土状況



▲セクション（南北）



▲79出土状況

▲遺物出土状況

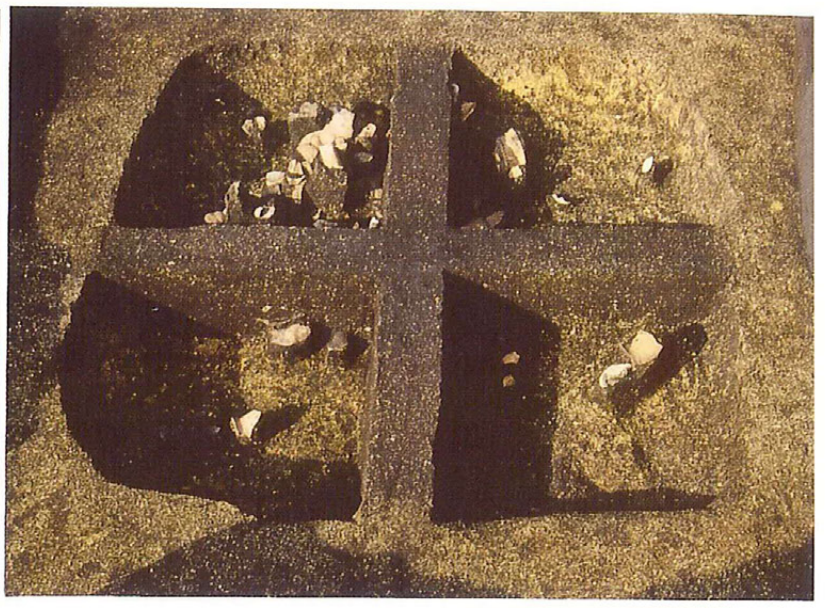
▲SA03完掘状況

写真図版5

▲SX01検出状況（北より）

▲SX01検出状況（西より）

▲SX01検出状況（南より）



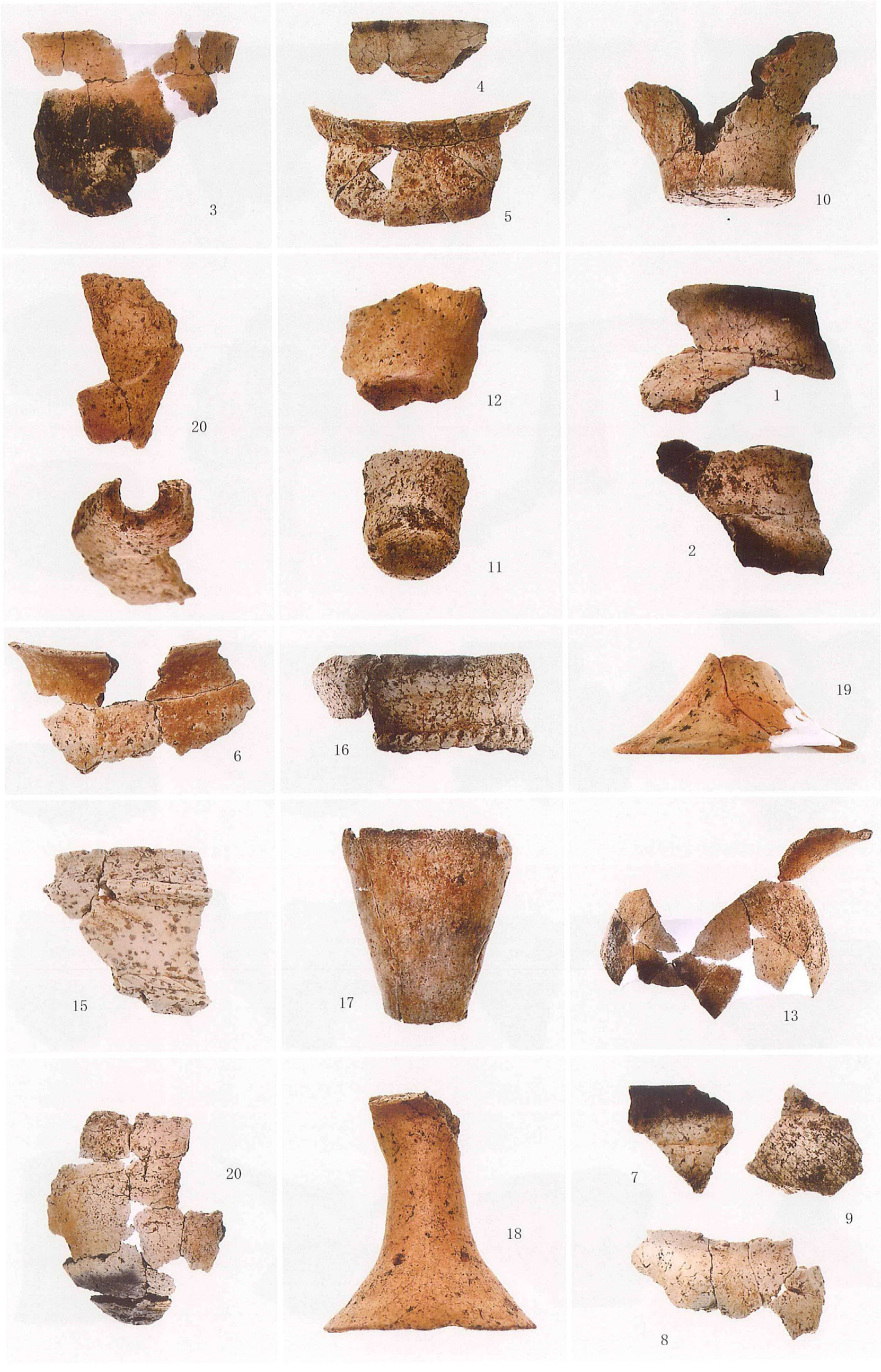
▲セクション（東西）

▲遺物出土状況（西より）

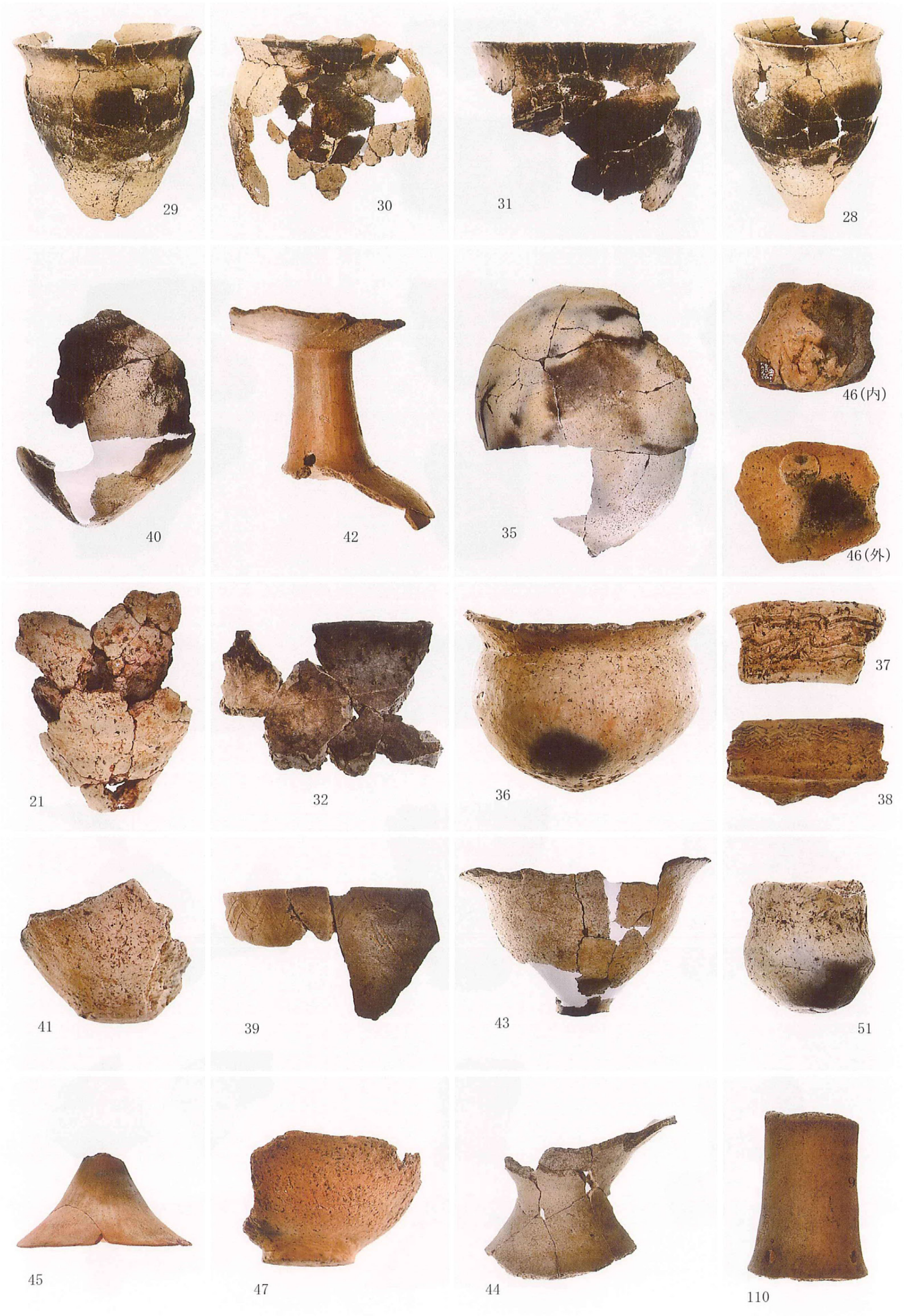
▲完掘状況（南より）

▲SX01完掘状況（西より）

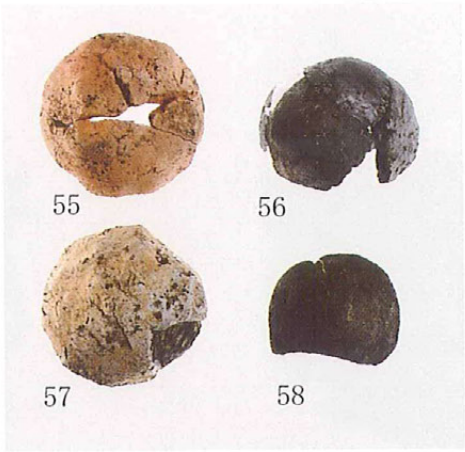
▲入子


3
4
5
10
20
12
1
11
2
6
16
19
15
17
13
20
18
7
9
8

写真図版 7

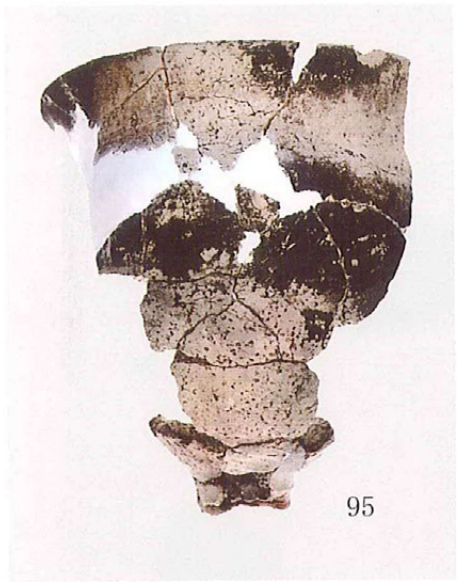


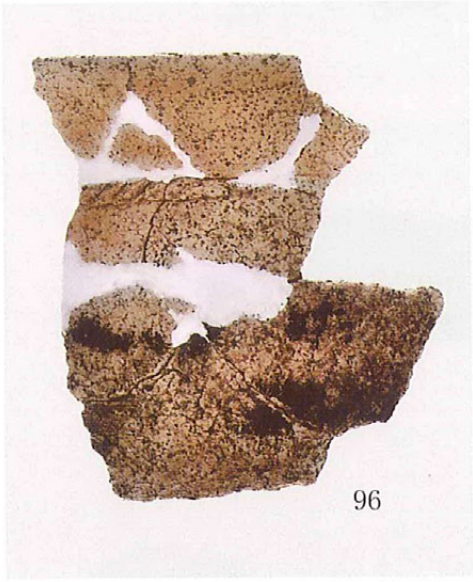
53


55 56 57 58

78

79


95

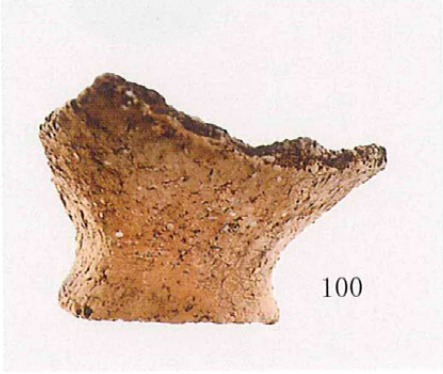

96

112

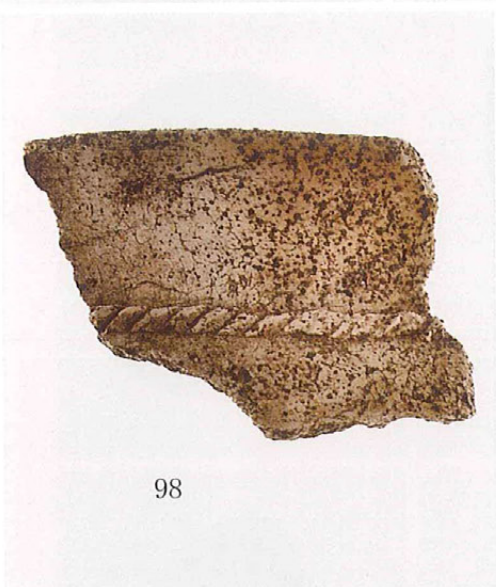
117 118

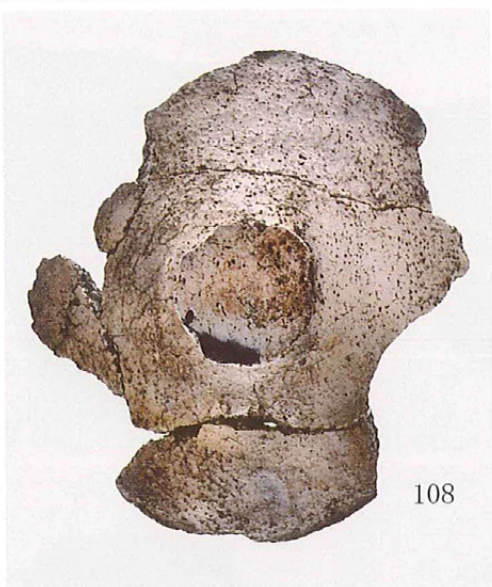
97

81


100

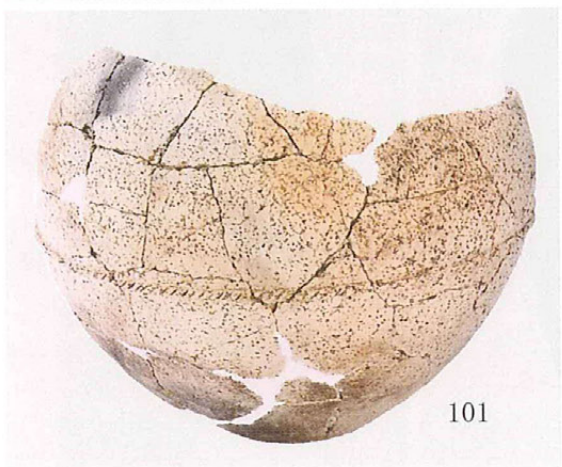
102


98


108

119 120 121

129


101

104

106

写真図版 9

143

144

146

149

25

59

26

62

63

64

66

27

60

68

65

86

69

70

71

72

75

67

73

74

87

88

89

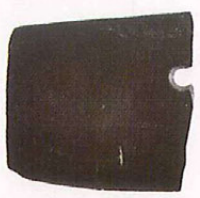
90

94

93

116

115


114

166

163

164

92

167

168

165

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| 書名（ふりがな） | むこうばるだい２いせき（だい３じちょうさ） |
| 書　　名 | 向原第２遺跡（第３次調査） |
| 副 書 名 | |
| 巻　　名 | |
| シリーズ名 | 都城市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第９２集 |
| 著編集者 | 矢部喜多夫 |
| 発行機関 | 宮崎県都城市教育委員会　TEL0986-23-9547　fax0986-23-9549 |
| 所 在 地 | 〒885－0013　宮崎県都城市菖蒲原町19－１号　都城市役所菖蒲原町別館 |
| 発行年月日 | ２００９年３月 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 向原第2遺跡 | 宮崎県都城市立野町3727番1ほか | 31° 43′ 47″ 付近 | 131° 06′ 01″ 付近 | 2008.1.9 ～3.31 | 1,780㎡ | 大学施設建設 |
| 種　別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | |
| 集落跡 | 弥生時代後期後葉・終末から古墳時代初頭 | 竪穴住居３軒<br>竪穴状遺構１基<br>土坑 | | 縄文土器、弥生土器<br>磨石、石皿、石鏃、石包丁　等 | | |


都城市文化財調査報告書　第92集

向原第２遺跡

2009年３月

編　集　宮崎県都城市教育委員会

発　行　〒885－0034　宮崎県都城市菖蒲原町19－1

TEL(0986)23－9547　FAX(0986)23－9549

印　刷　㈲都城新生社印刷